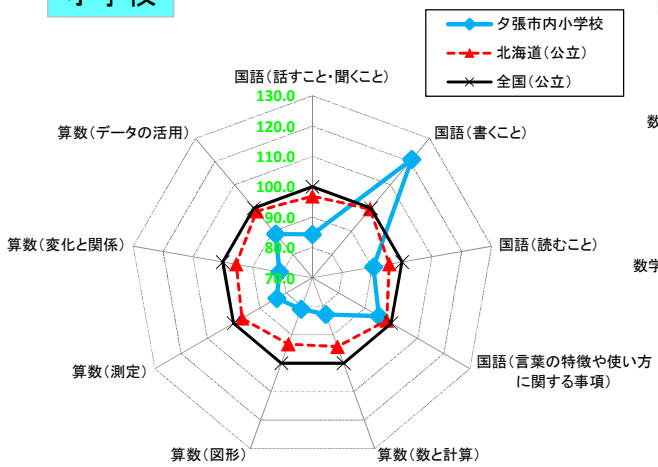
■夕張市内の状況及び学力向上策　（小学校数：1校 、児童数：32人）（中学校数：1校 、生徒数：30人）

【教科全体の状況】

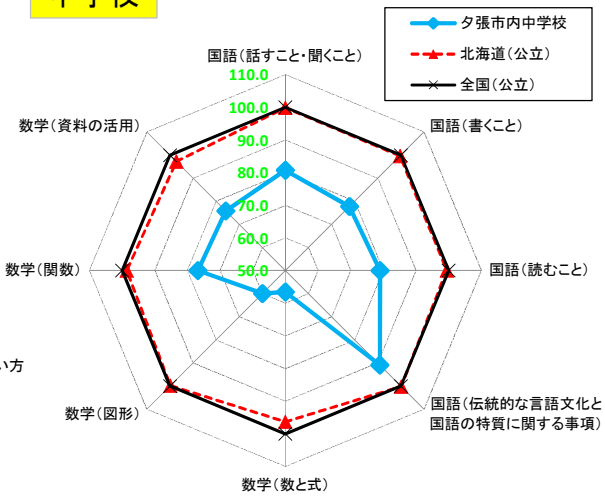
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	62	54
算数・数学	59	38

小学校

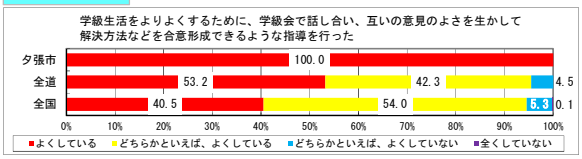


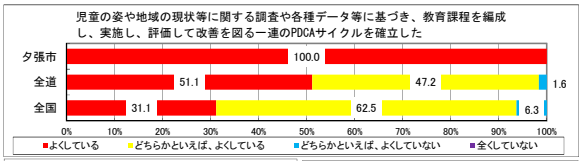
中学校

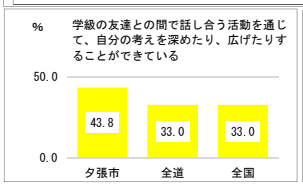


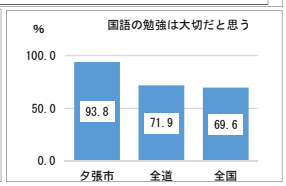
【質問紙の状況】

小学校

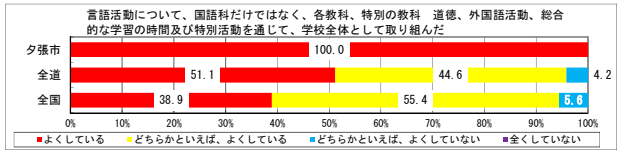


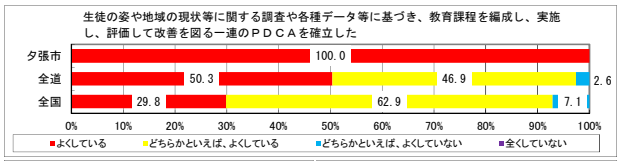


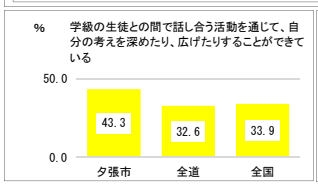


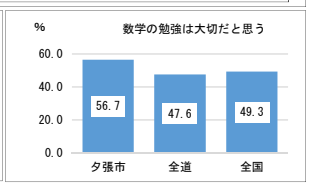


中学校









【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行ったことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	言語活動について、国語科だけではなく、各教科、特別の教科　道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んだことにより、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立したことにより、授業改善が図られ、国語の勉強は大切だと思う児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立したことにより、授業改善が図られ、数学の勉強は大切だと思う生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【夕張市の学力向上策】

◎　「ゆうばりっこ、学び育成プラン」に基づく取組の充実と検証・改善
◎　夕張市小中連携学力向上プロジェクト委員会による学力分析と改善方策の検討
◎　小中一貫した学びのスタンダードの徹底とCSと連携した補充的な学習の充実
◎　１人１台端末の効果的な活用を図るための教員の研修機会の充実

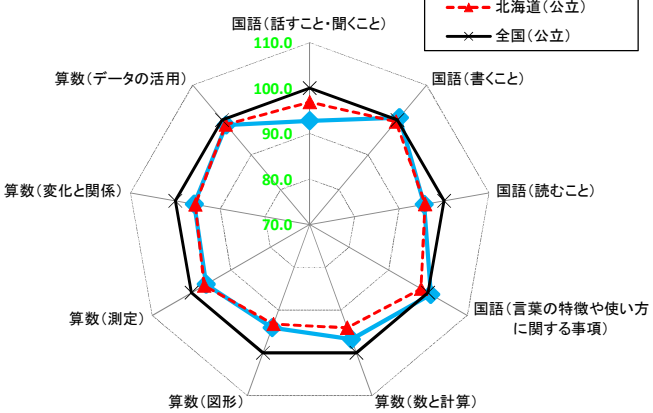
■岩見沢市内の状況及び学力向上策　（小学校数：14校 、児童数：533人）（中学校数：9校 、生徒数：573人）

【教科全体の状況】

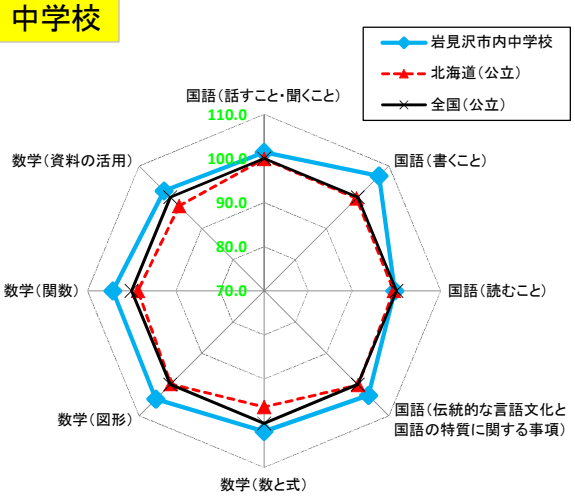
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	63	66
算数・数学	68	59

小学校

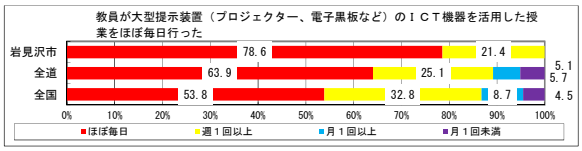


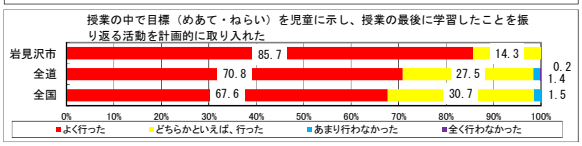
中学校

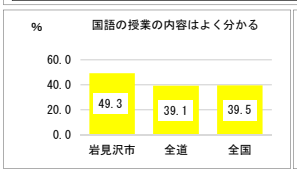


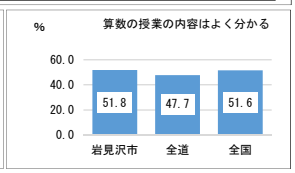
【質問紙の状況】

小学校

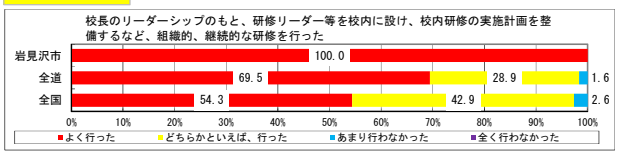


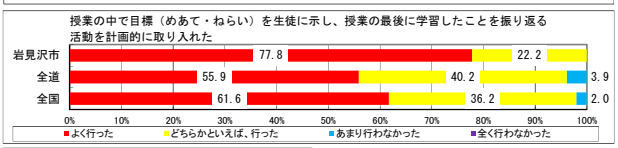


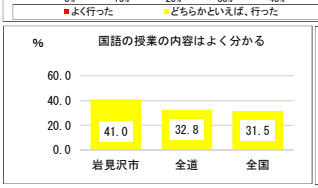


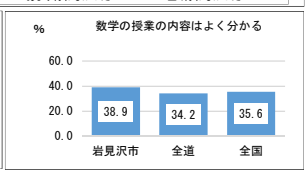


中学校









【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）のICT機器を活用した授業をほぼ毎日行ったことにより、授業改善が図られ、国語及び算数の授業がよく分かる児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の話すこと・聞くこと、書くこと、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項、数学の全ての領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。
授業の中で目標（めあて・ねらい）を児童に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたことにより、授業改善が図られ、国語及び算数の授業の内容がよく分かる児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	授業の中で目標（めあて・ねらい）を生徒に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたことにより、国語及び数学の授業の内容がよく分かる生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【岩見沢市の学力向上策】

◎　授業スタイル、学習習慣、教室環境等の統一を図り、組織的な学校運営を進める学校力向上の取組の全校での実施
◎　学びの連続性を踏まえた中学校区別学力向上小中接続の研修会の開催
◎　1人1台端末の効果的な活用促進を図る市主催の研修会の実施

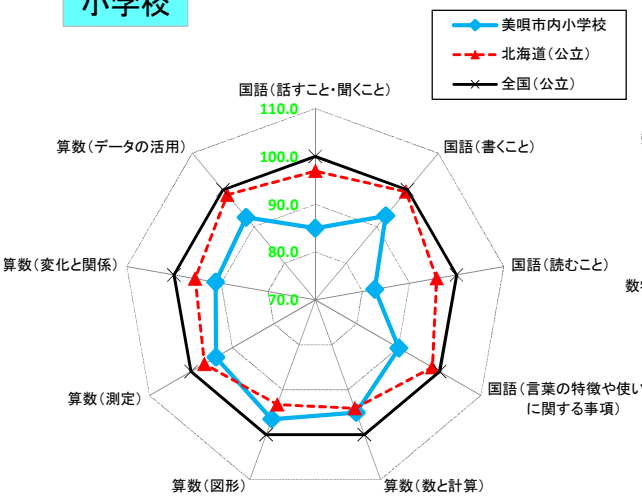
■美唄市内の状況及び学力向上策　（小学校数：2校 、児童数：118人）（中学校数：2校 、生徒数：119人）

【教科全体の状況】

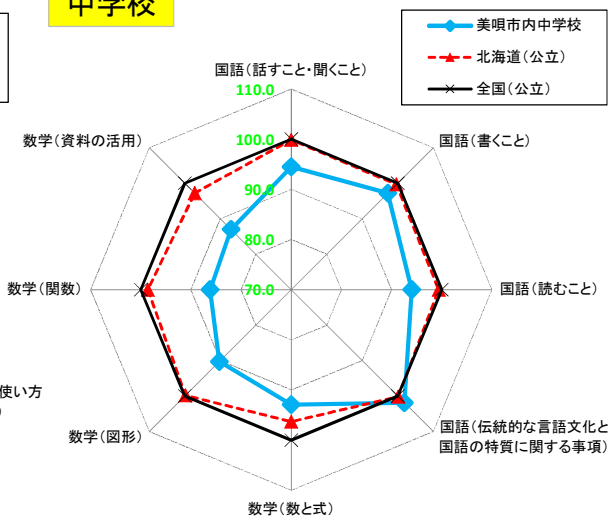
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	57	63
算数・数学	66	51

小学校

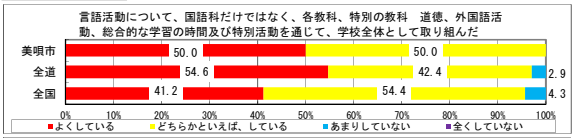


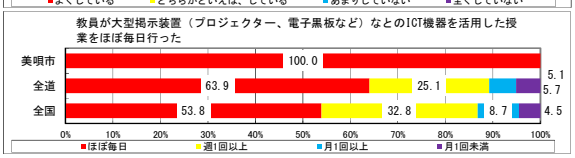
中学校

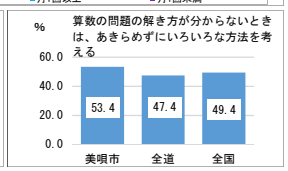


【質問紙の状況】

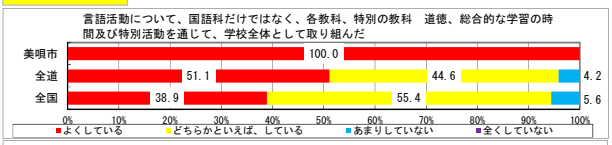
小学校

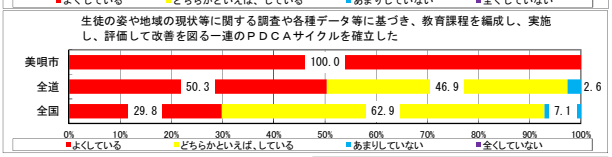


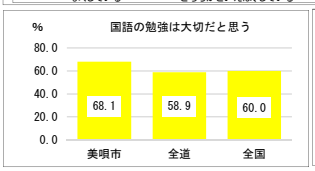


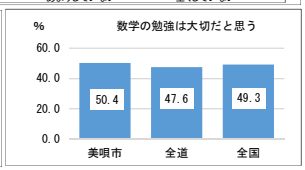


中学校









【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
言語活動について、国語科だけではなく、各教科、特別の教科　道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んだことにより、授業改善が図られ、国語の授業の内容がよく分かる児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	言語活動について、国語科だけではなく、各教科、特別の教科　道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んだことにより、授業改善が図られ、国語及び数学の勉強は大切だと思う生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）のICT機器を活用した授業をほぼ毎日行ったことにより、算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立したことにより、授業改善が図られ、国語の伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

【美唄市の学力向上策】

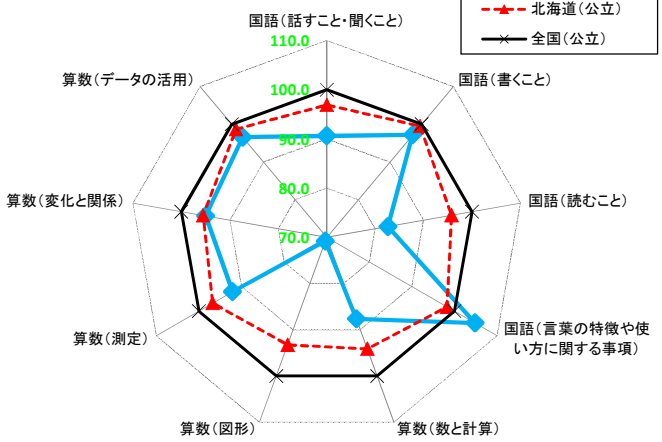
◎　小・中学校の管理職と教員で構成する「学力向上プロジェクトチーム」による「確かな学力育成プラン」の作成、活用
◎　ティーム・ティーチングによる指導と少人数指導、習熟度別学習による学習支援の充実
◎　学習規律や授業スタイルを整えた「美唄スタイル」の徹底と小・中学校の連携した学習習慣を確立する取組の充実
◎　１人１台端末を効果的に活用した授業づくりに係る研修会の実施

■芦別市内の状況及び学力向上策　（小学校数：2校 、児童数：61人）（中学校数：2校 、生徒数：65人）

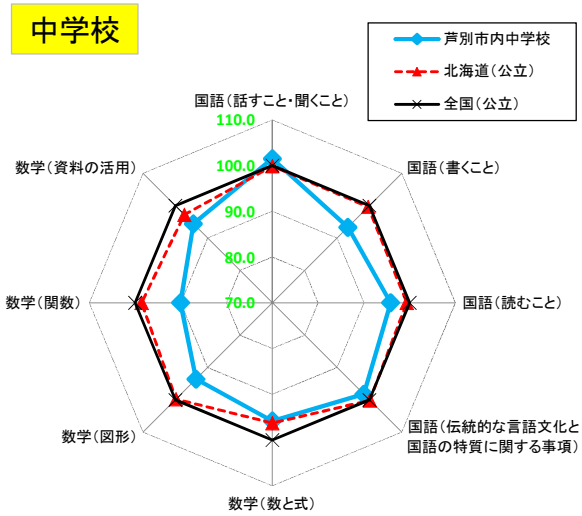
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

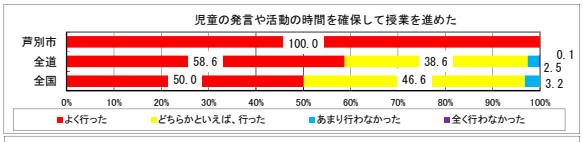


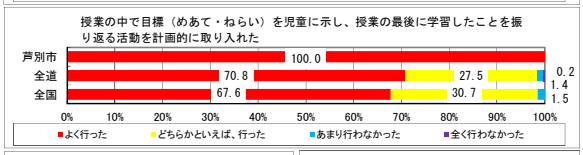
中学校

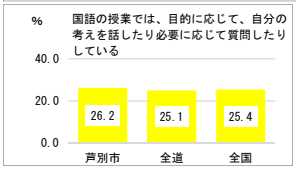


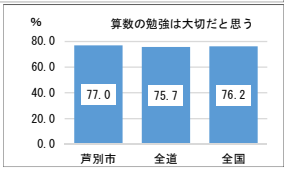
【質問紙の状況】

小学校

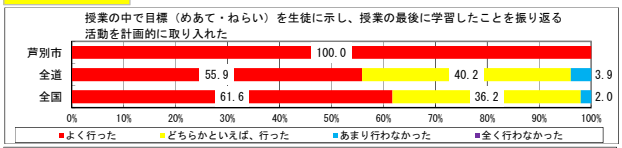


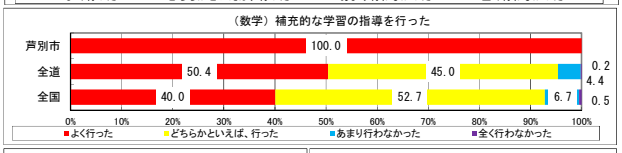


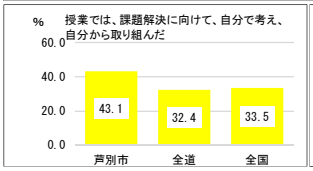


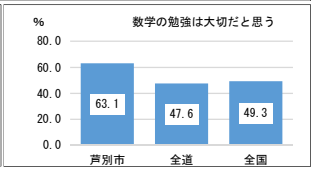


中学校









【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
児童の発言や活動の時間を確保して授業を進めたことにより、国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしている児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	授業の中で目標（めあて・ねらい）を生徒に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたことにより、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
授業の中で目標（めあて・ねらい）を児童に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたことにより、算数の勉強は大切だと思う児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	数学において、補充的な学習の指導を行ったことにより、数学の勉強は大切だと思う生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【芦別市の学力向上策】

◎　道教委指定事業「学校力向上に関する総合実践事業」における包括的な学校改善の推進
◎　小中共通した「芦別スタイル」による授業改善の推進
◎　１人１台端末を効果的に活用した授業づくりの推進

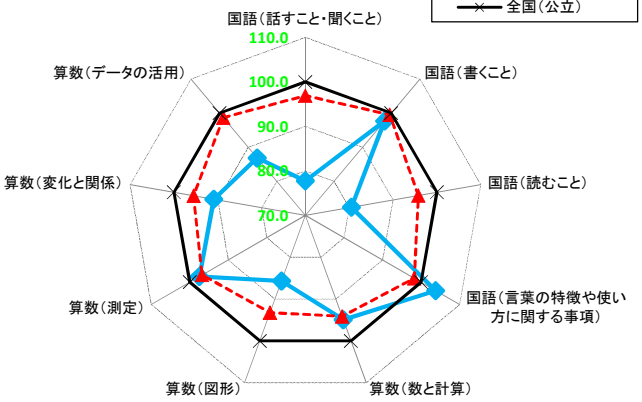
■赤平市内の状況及び学力向上策　（小学校数：3校 、児童数：43人）（中学校数：1校 、生徒数：50人）

【教科全体の状況】

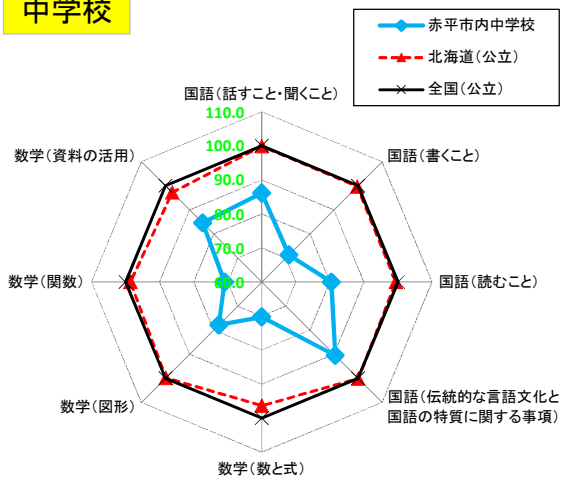
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	60	54
算数・数学	64	43

小学校

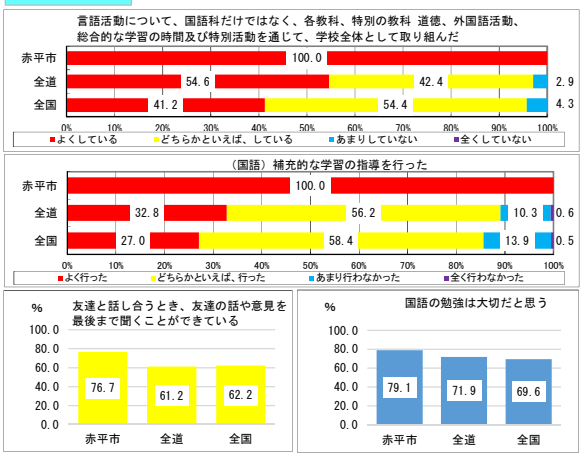


中学校

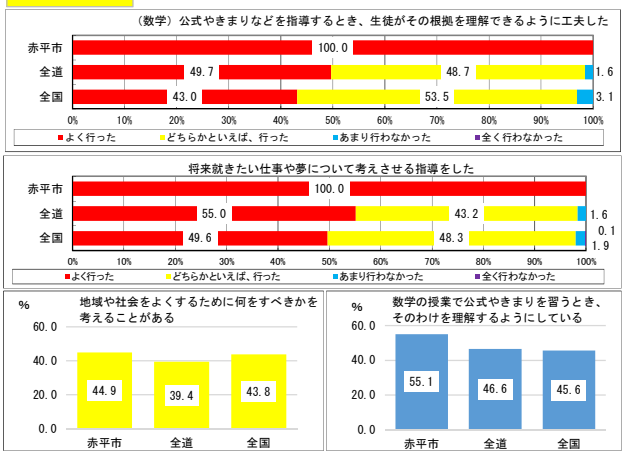


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
言語活動について、国語科だけではなく、各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んだことにより、友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	数学において、公式やきまりを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことにより、数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
国語において、補充的な学習の指導を行ったことにより、国語の言葉の特徴や使い方に関する事項の領域で全国の平均正答率を上回るとともに、国語の勉強は大切だと思う児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	市として、キャリア教育の一層の充実を図るとともに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしてきたことにより、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【赤平市の学力向上策】

◎　めざす授業スタイルの共有と効果的な授業展開の実施率向上
◎　キャリア教育の充実
◎　望ましい家庭学習の例示と家庭学習時間の実態把握による家庭学習への取組の充実
◎　漢検・英検の奨励による学習意欲の喚起と公設塾の継続

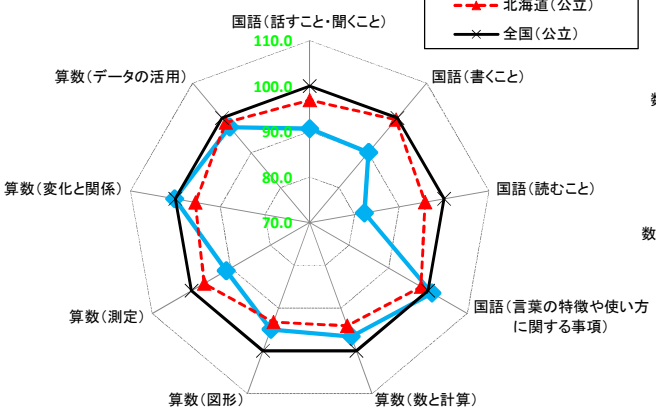
■三笠市内の状況及び学力向上策　（小学校数：2校 、児童数：43人）（中学校数：2校 、生徒数：43人）

【教科全体の状況】

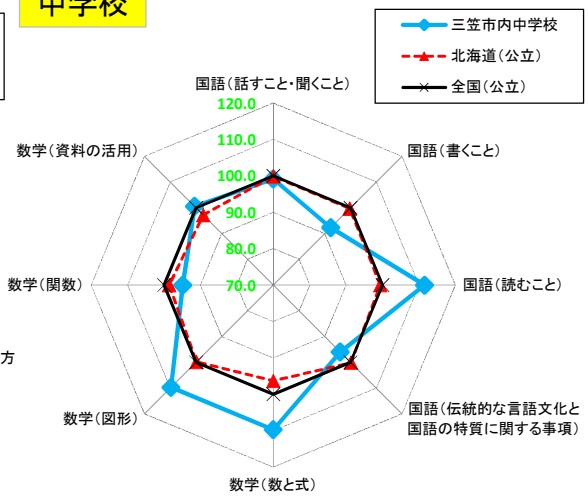
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	61	64
算数・数学	68	60

小学校

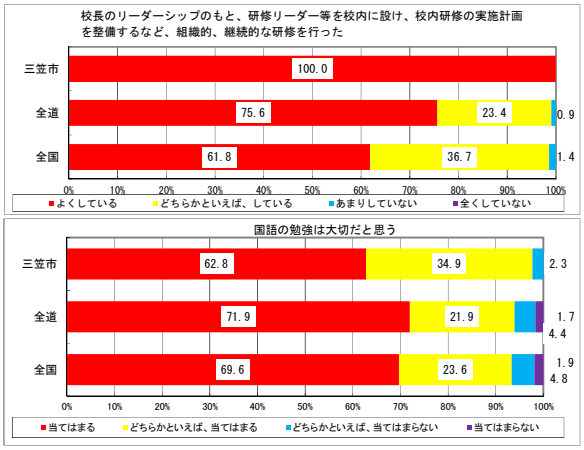


中学校

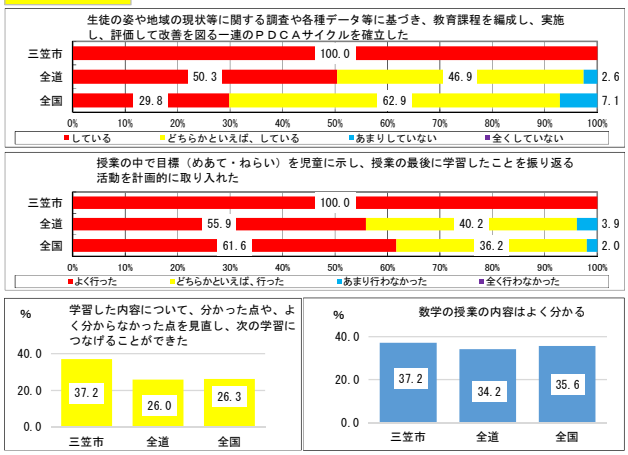


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の言葉の特徴や使い方に関する事項、算数の変化と関係の領域で、全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。	生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立したことにより、授業改善が図られ、数学の授業の内容がよく分かる生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
市として、退職教員や私塾講師を活用した「学力向上未来塾推進事業」を実施したことにより、児童の学習意欲が向上し、国語の勉強が大切だと思う・どちらかといえば大切だと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	授業の中で目標（めあて・ねらい）を生徒に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたことにより、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができた生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【三笠市の学力向上策】

◎　学力向上を目指し、退職教員や私塾講師を活用した「学力向上未来塾推進事業」の実施
◎　児童生徒の思考力を高める授業づくり「三笠市授業スタイル」に基づき、中学校区で共通した目指す子ども像を設定
◎　小中合同研修会における１人１台端末を活用した授業づくりに係る研修の実施

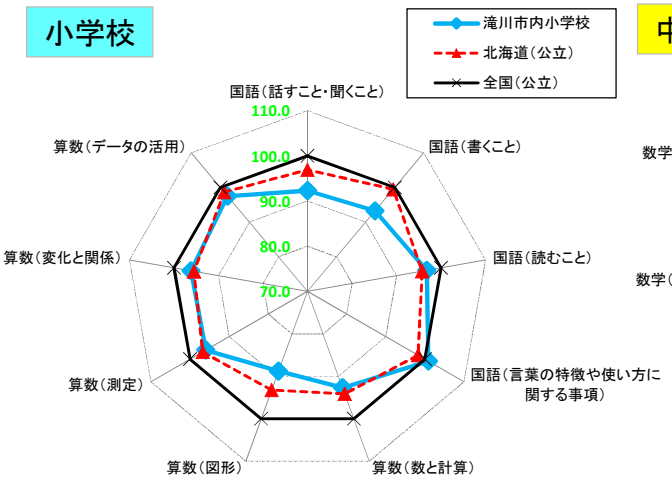
■滝川市内の状況及び学力向上策　（小学校数：6校 、児童数：281人）（中学校数：4校 、生徒数：301人）

【教科全体の状況】

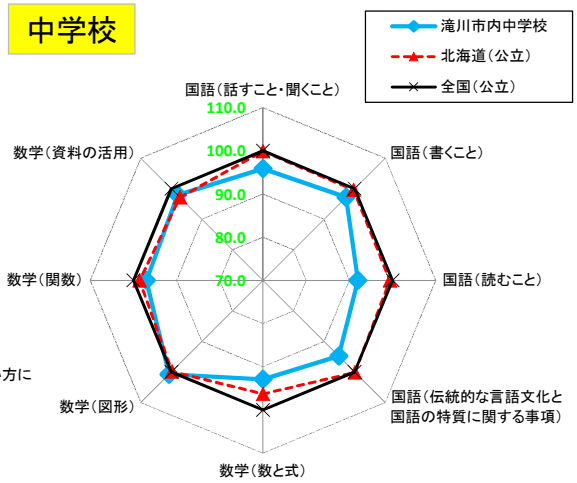
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	63	61
算数・数学	67	55

小学校

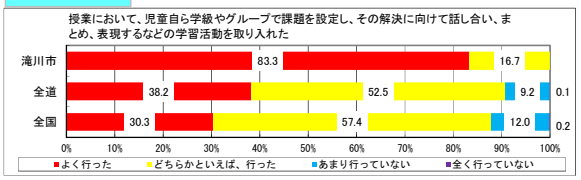


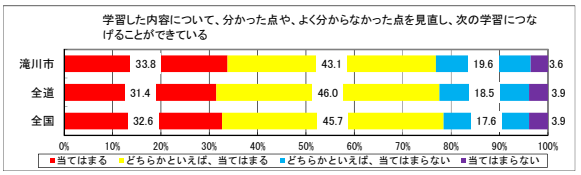
中学校

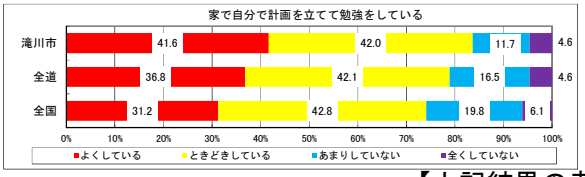


【質問紙の状況】

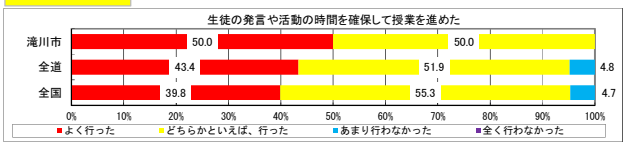
小学校

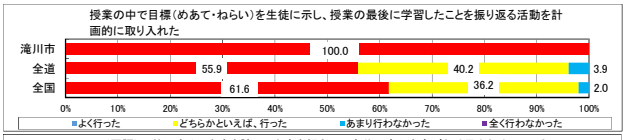


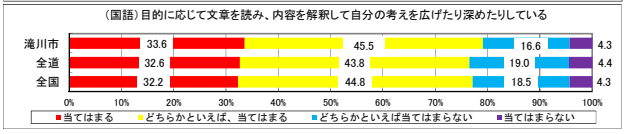


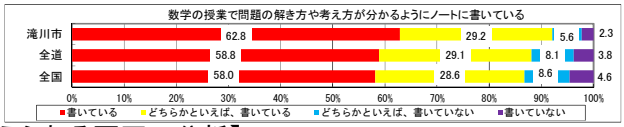


中学校









【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めたことにより、国語において、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりしている生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
市として、家庭学習の手引による保護者と連携した家庭における予習や復習の習慣化に向けた取組を推進したことにより、家で自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	授業の中で目標（めあて・ねらい）を生徒に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたことにより、数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【滝川市の学力向上策】

◎　「学びサポーター」の戦略的配置による少人数指導体制の積極的な推進
◎　家庭学習の手引による保護者と連携した家庭における予習や復習の習慣化に向けた取組の推進
◎　道教委指定事業「授業改善推進チーム活用事業」を活用した学校間の取組の発信による積極的な授業改善の推進

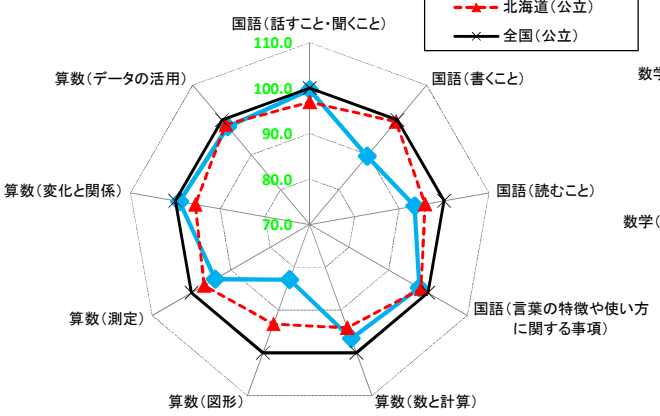
■砂川市内の状況及び学力向上策　（小学校数：5校 、児童数：102人）（中学校数：2校 、生徒数：108人）

【教科全体の状況】

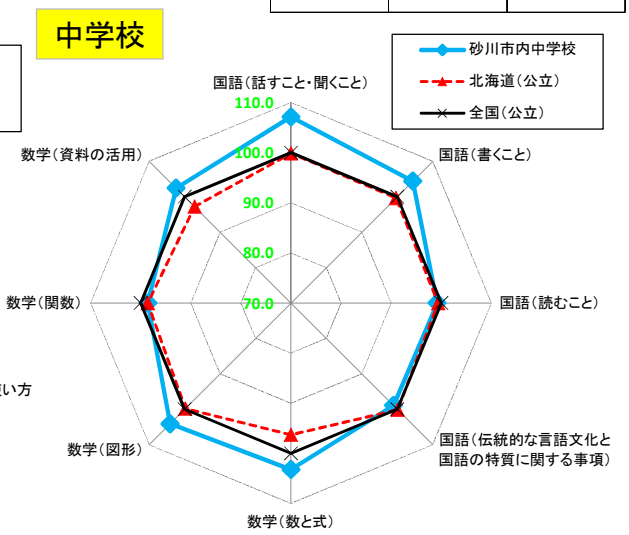
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	62	66
算数・数学	67	59

小学校

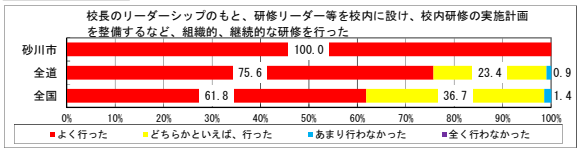


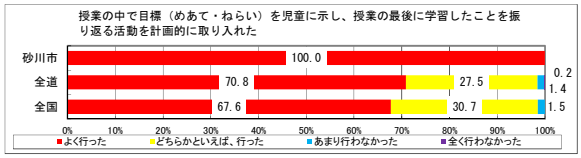
中学校

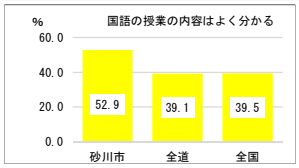


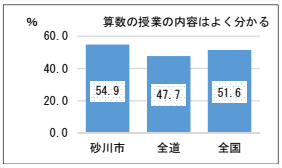
【質問紙の状況】

小学校

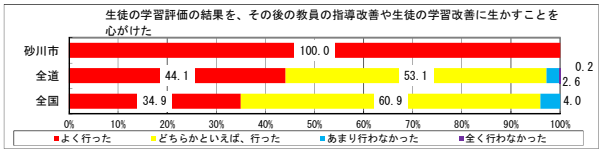


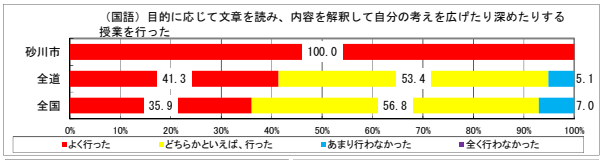


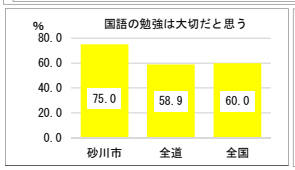


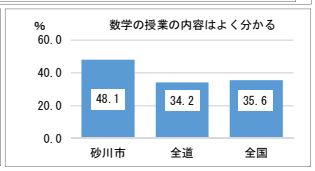


中学校









【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行ったことにより、授業改善が図られ、国語及び算数の授業の内容がよく分かる児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	生徒の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かすことを心がけたことにより、授業改善が図られ、国語の勉強は大切だと思う生徒や、数学の授業の内容がよく分かる生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
授業の中で目標（めあて・ねらい）を児童に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたことにより、授業改善が図られ、国語の話すこと・聞くこと、算数の数と計算、変化と関係の領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。	国語において、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業を行ったことにより、国語の話すこと・聞くこと、書くことの領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

【砂川市の学力向上策】

◎　課題と振り返りがある授業改善や「ほめること」を大切にした自己肯定感を高める指導の推進
◎　中学校区で設定した家庭学習強化週間による、基礎・基本の確実な定着を図る家庭学習の充実
◎　1人1台端末を効果的に活用した授業づくりに係るサポート体制の充実

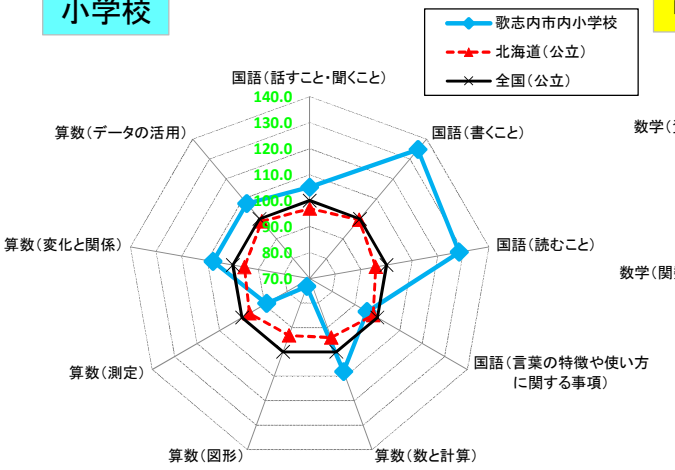
■歌志内市内の状況及び学力向上策　（小学校数：1校 、児童数：11人）（中学校数：1校 、生徒数：16人）

【教科全体の状況】

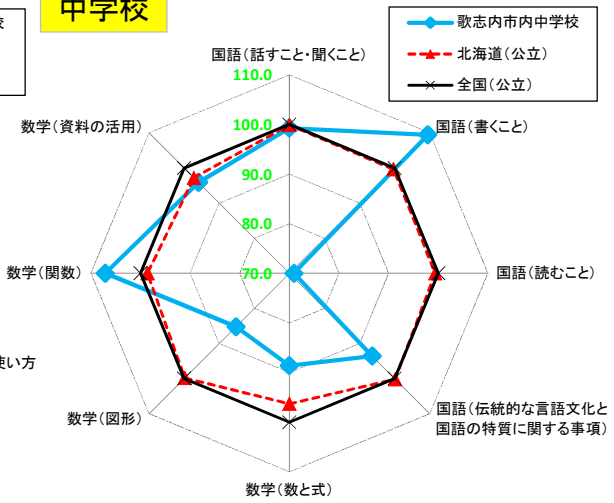
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	70	60
算数・数学	71	53

小学校

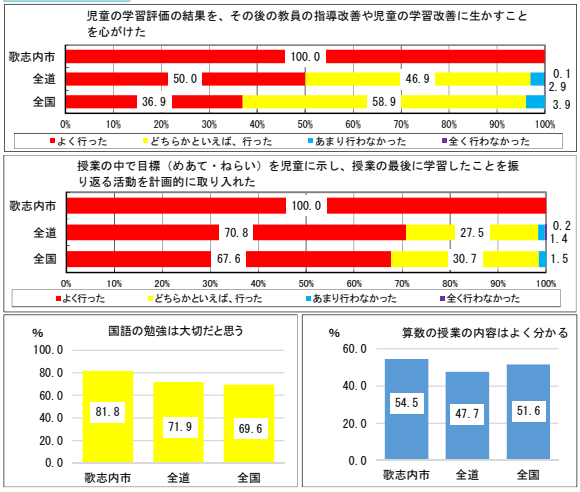


中学校

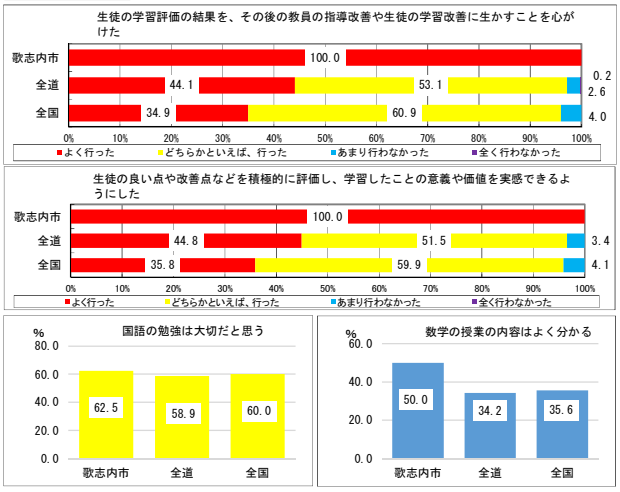


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
児童の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かすことを心がけたことにより、授業改善が図られ、国語の勉強は大切だと思う児童や、算数の授業の内容がよく分かる児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	生徒の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かすことを心がけたことにより、授業改善が図られ、国語の書くこと、数学の関数の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。
授業の中で目標（めあて・ねらい）を児童に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたことにより、授業改善が図られ、国語の話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと、算数の数と計算、変化と関係、データの活用の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。	生徒の良い点や改善点などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしたことにより、国語の勉強は大切だと思ったり、数学の授業の内容がよく分かる生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【歌志内市の学力向上策】

◎　義務教育学校としての9年間の学びを充実させるための教育課程の編成と指導計画の作成
◎　教科担任制による基礎学力向上の取組
◎　ICT支援員による1人1台端末を効果的に活用した授業づくりに係るサポート体制の充実

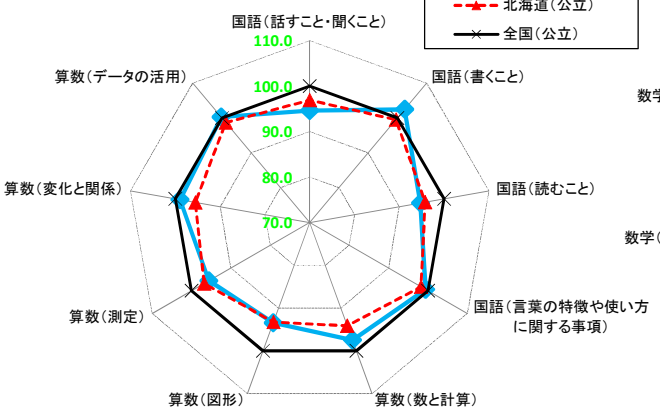
■深川市内の状況及び学力向上策　（小学校数：6校 、児童数：111人）（中学校数：2校 、生徒数：116人）

【教科全体の状況】

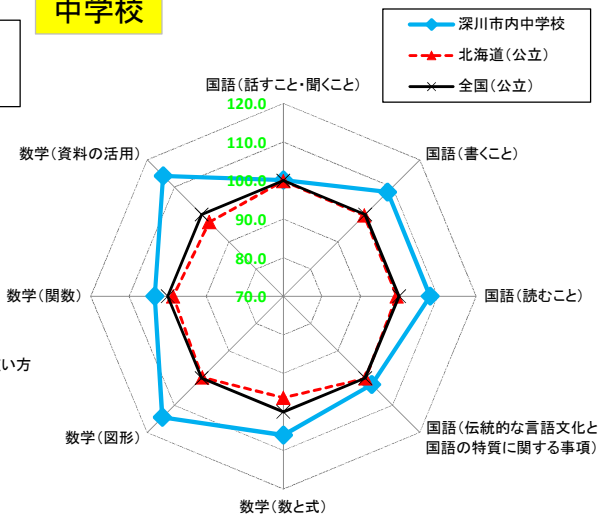
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	63	67
算数・数学	69	63

小学校

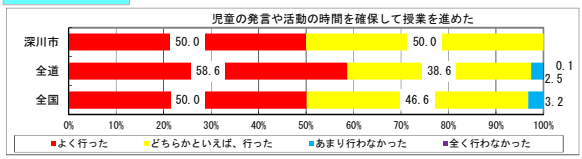


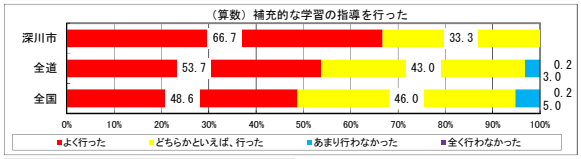
中学校

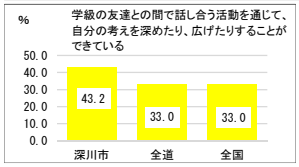


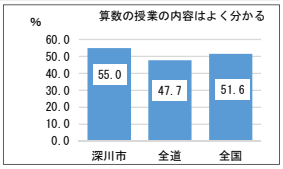
【質問紙の状況】

小学校

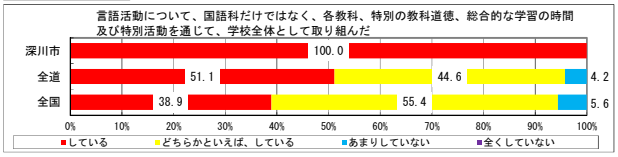


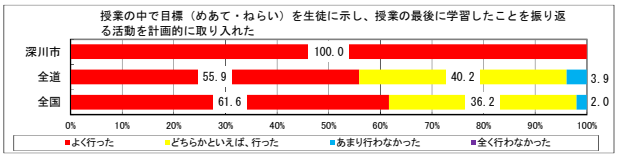


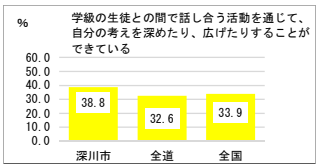


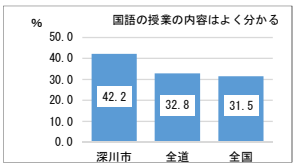


中学校









【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
児童の発言や活動の時間を確保して授業を進めたことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	言語活動について、国語科だけではなく、各教科、特別の教科　道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んだことにより、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
算数において、補充的な学習の指導を行ったことにより、算数のデータの活用の領域で全国の平均正答率を上回るとともに、算数の授業の内容がよく分かる児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	授業の中で目標（めあて・ねらい）を生徒に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたことにより、国語及び数学の全ての領域等で全国の平均正答率を上回るとともに、国語の授業の内容がよく分かる生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【深川市の学力向上策】

◎　小・中学生を対象にした家庭学習や長期休業中の学習支援を行う「学習サポートプログラム」の実施
◎　学び続ける教員像の具現化に資する教育振興会等を活用した研修機会の充実
◎　1人1台端末を効果的に活用した授業づくりに係るサポート体制の充実

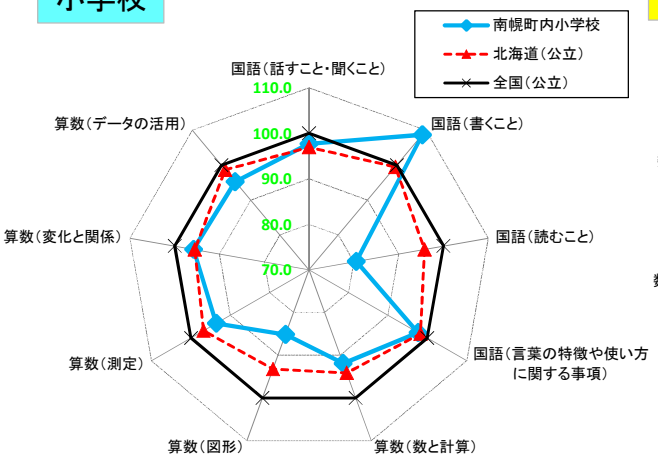
■南幌町内の状況及び学力向上策　（小学校数：1校 、児童数：50人）（中学校数：1校 、生徒数：42人）

【教科全体の状況】

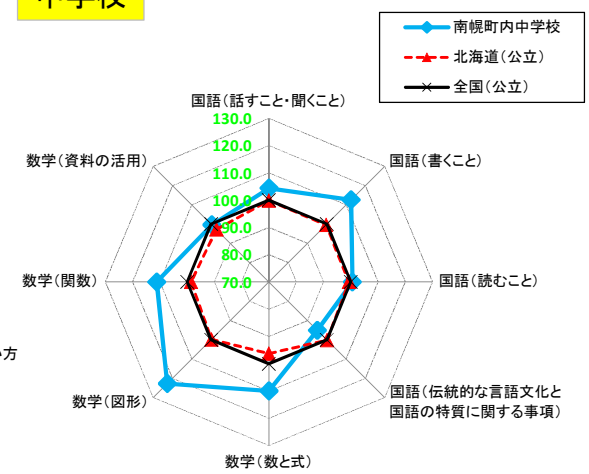
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	62	66
算数・数学	66	63

小学校

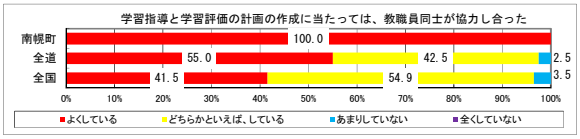


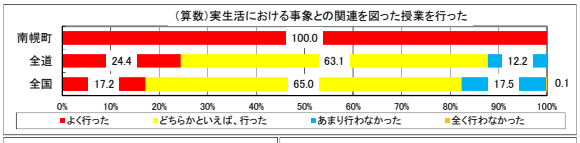
中学校

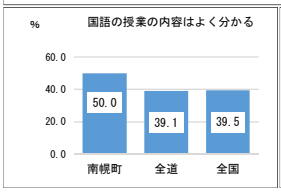


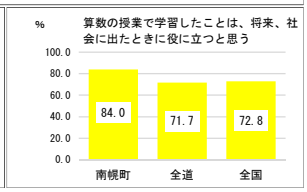
【質問紙の状況】

小学校

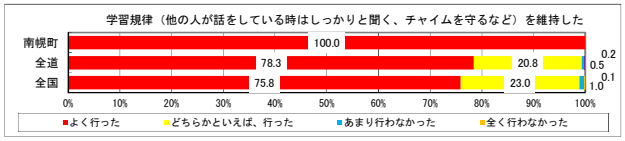


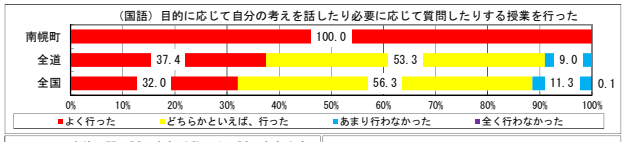


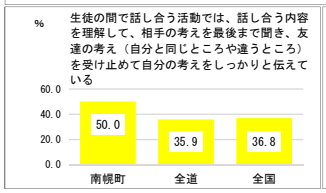


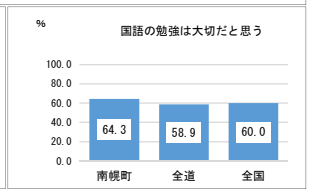


中学校









【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力し合ったことにより、授業改善が図られ、国語の授業の内容がよく分かる児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	学習規律（他の人の話している時はしっかりと聞く、チャイムを守るなど）を維持したことにより、生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えている生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
算数において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の授業で学習したことが、将来、社会に出たときに役に立つと思う児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	国語において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、国語の勉強は大切だと思う生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【南幌町の学力向上策】

◎　小・中学校における基礎学力向上プラン等に基づく組織的な取組の推進
◎　児童生徒の一人一人の状況に応じた指導や支援体制づくりに向けた特別支援教育学習指導員の配置
◎　きめ細やかな指導に向けた少人数学級のための町独自による教員加配

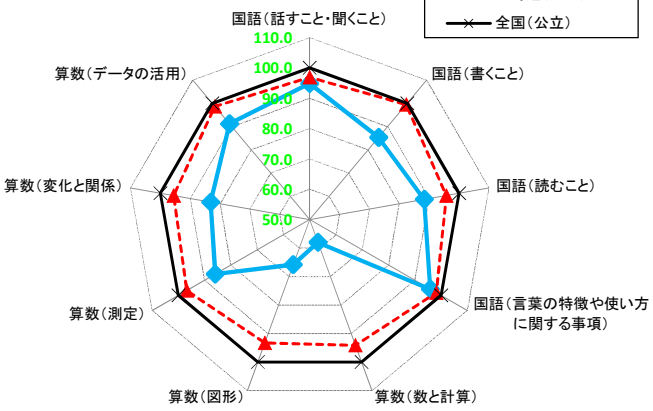
■奈井江町内の状況及び学力向上策　（小学校数：1校 、児童数：28人）（中学校数：1校 、生徒数：25人）

【教科全体の状況】

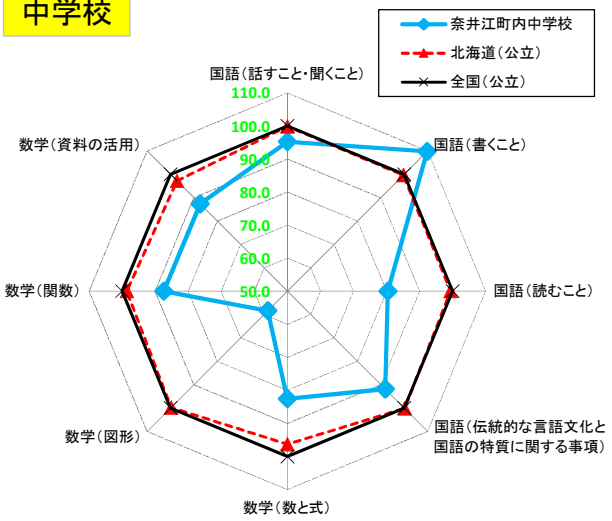
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	60	61
算数・数学	55	45

小学校

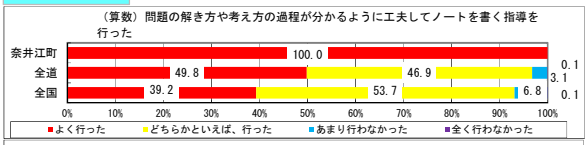


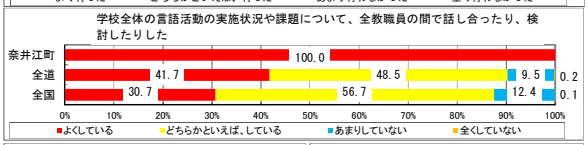
中学校

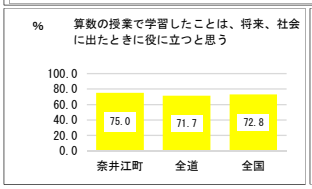


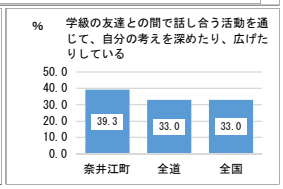
【質問紙の状況】

小学校

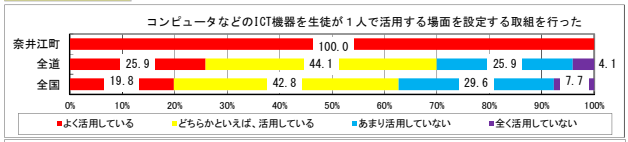


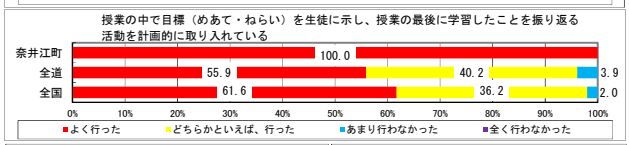


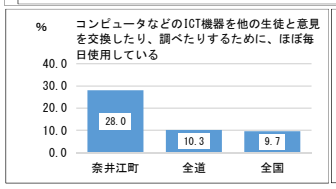


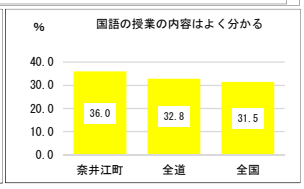


中学校









【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
算数において、問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートに書く指導を行ったことにより、授業が分かるようになり、算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	コンピュータなどのICT機器を生徒が１人で活用する場面を設定する取組を行ったことにより、コンピュータなどのICT機器を他の生徒と意見交換したり、調べたりするために、ほぼ毎日使用した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしたことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	授業の中で目標（めあて・ねらい）を生徒に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたことにより、国語の授業の内容がよく分かる生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【奈井江町の学力向上策】

◎　小・中学校で統一した学習規律の徹底、家庭学習習慣の確立
◎　「小中高教育の連携に関する連携協議会」における、相互の乗り入れ授業の検討及び実施
◎　町図書館司書と学校図書担当教諭による読書活動の支援

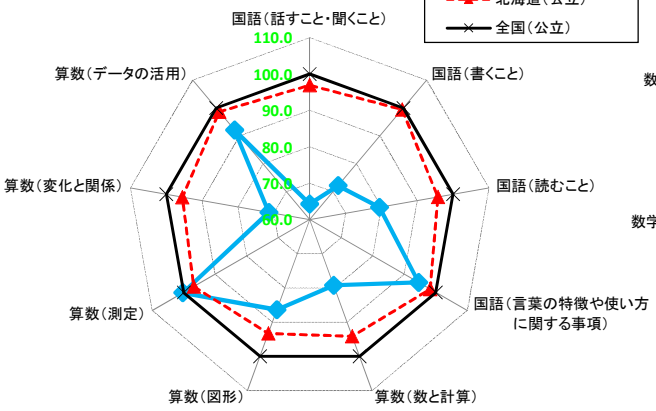
■上砂川町内の状況及び学力向上策　（小学校数：1校 、児童数：8人）（中学校数：1校 、生徒数：4人）

【教科全体の状況】

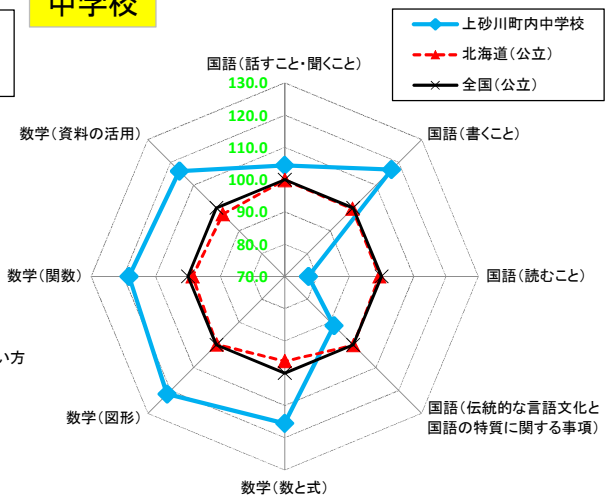
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	53	63
算数・数学	59	67

小学校

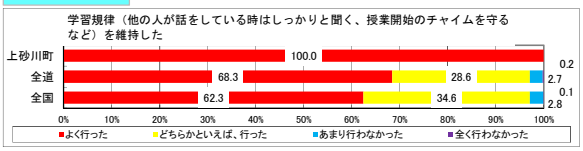


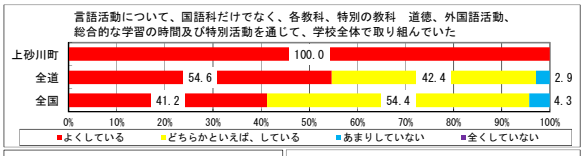
中学校

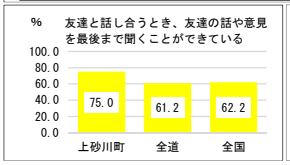


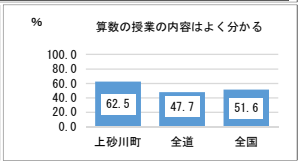
【質問紙の状況】

小学校

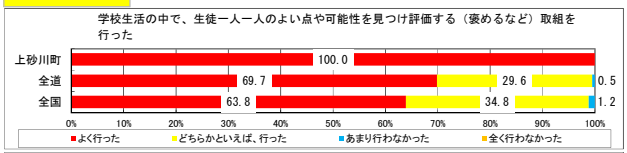


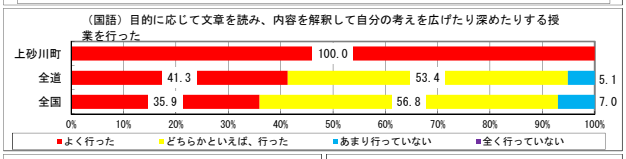


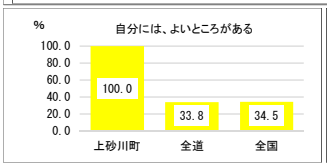


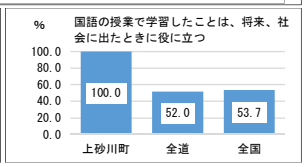


中学校









【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
学習規律（他の人が話をしている時はしっかりと聞く、授業開始のチャイムを守るなど）を維持したことにより、友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行ったことにより、自分には、よいところがあると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
言語活動について、国語科だけでなく、各教科、特別の教科　道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体で取り組んだことにより、算数の授業の内容がよく分かる児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	国語において、目的に応じて文章を読み、内容を理解して自分の考えを広げたり深めたりする授業を行ったことにより、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【上砂川町の学力向上策】

◎　タブレットの教材ソフト導入による分かりやすい授業づくりの促進
◎　将来職業への目標意識をもたせるための「学び応援事業」の実施
◎　児童生徒自ら目標を立てて取り組む生活リズムチェックシートによる生活習慣の改善
◎　公設塾の設置

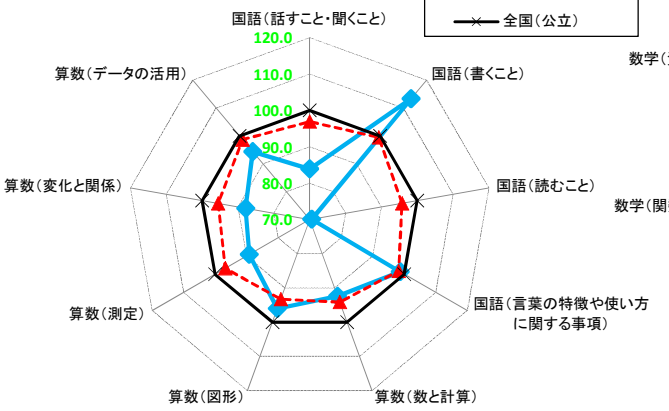
■由仁町内の状況及び学力向上策　（小学校数：1校 、児童数：24人）（中学校数：1校 、生徒数：32人）

【教科全体の状況】

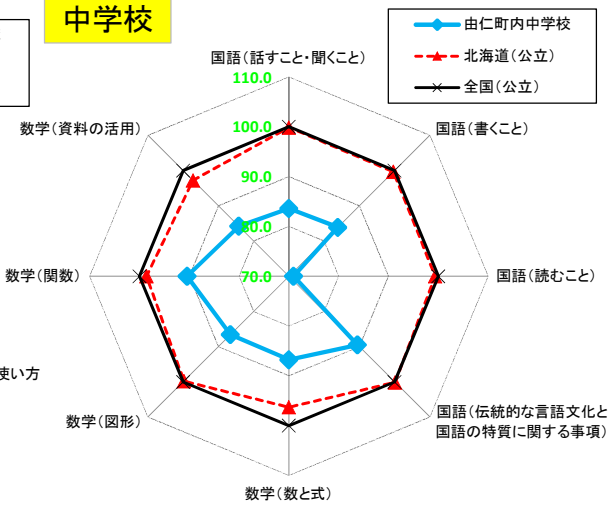
平均正答率	小学校	中学校
国語	60	54
算数・数学	66	50

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

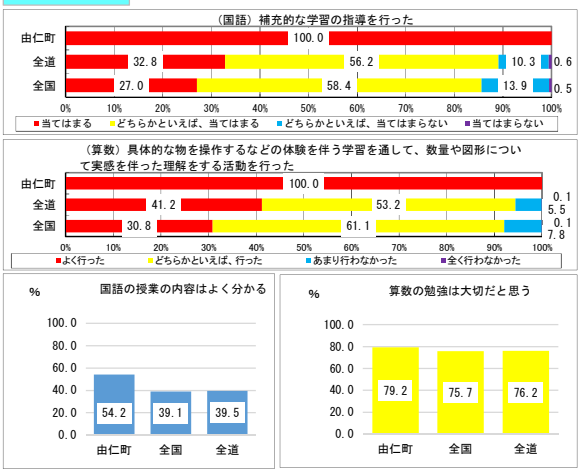


中学校

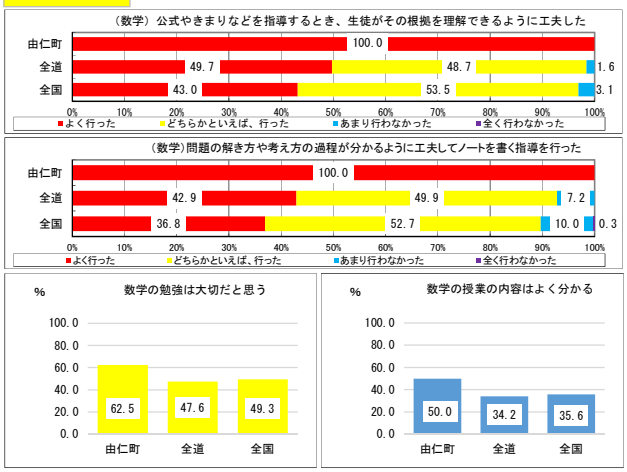


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語において、補充的な学習の指導を行ったことにより、国語の授業の内容がよく分かる児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	数学において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことにより、数学の勉強は大切だと思う生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
算数において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行ったことにより、算数の勉強は大切だと思う児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	数学において、問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導を行ったことにより、数学の授業の内容がよく分かる生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【由仁町の学力向上策】

◎　町学力向上委員会による、全国学力・学習状況調査等を活用した、児童生徒の学力及び学習習慣の分析や対策の検討
◎　小中一貫教育の推進に向けた検討組織の設置及び教育課程の編成
◎　放課後学習教室及び長期休業期間中における児童生徒への個別指導の実施
◎　GIGAスクールサポーターの配置

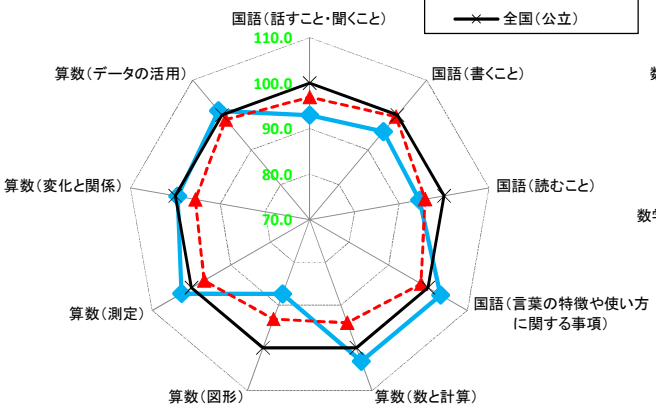
■長沼町内の状況及び学力向上策　（小学校数：1校 、児童数：83人）（中学校数：1校 、生徒数：78人）

【教科全体の状況】

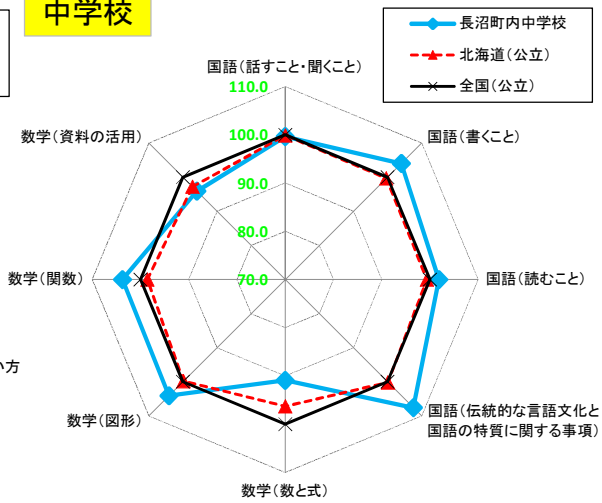
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	64	67
算数・数学	70	56

小学校

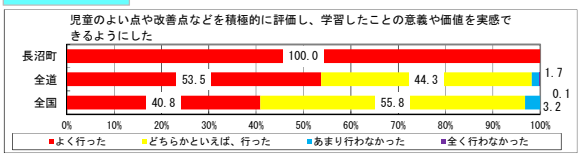


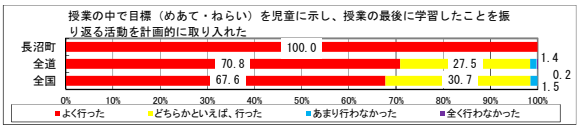
中学校

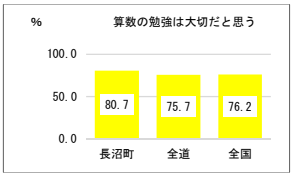


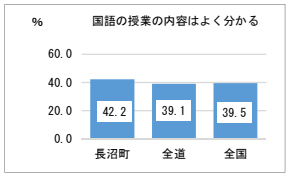
【質問紙の状況】

小学校

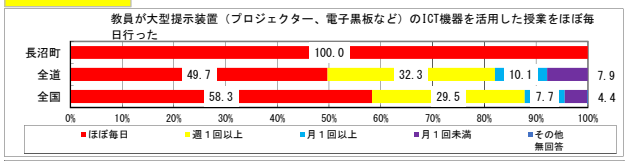


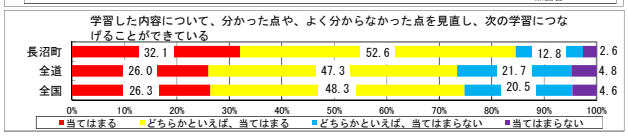


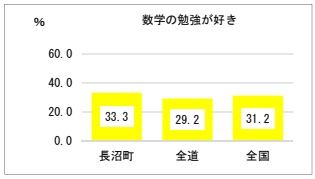


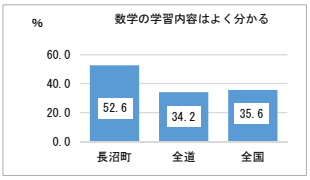


中学校









【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
児童のよい点や改善点などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしたことにより、算数の勉強は大切だと思う児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）のICT機器を活用した授業をほぼ毎日行ったことにより、数学の学習内容がよく分かる生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
授業の中で目標（めあて・ねらい）を児童に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたことにより、国語の授業の内容がよく分かる児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	町として、小中一貫教育推進会議における小学校及び中学校の教育課題の共有、改善策の検討を行ったことにより、授業改善が図られ、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげたり、数学の勉強が好きになったりした生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【長沼町の学力向上策】

◎　教育委員会における各種調査結果の分析及び学力向上に向けた取組の推進
◎　小中一貫教育推進会議における小学校及び中学校の教育課題の共有、改善策の検討
◎　授業改善推進事業における教員の指導力向上に向けた研修支援の充実
◎　ICTを活用した学習活動の一層の推進

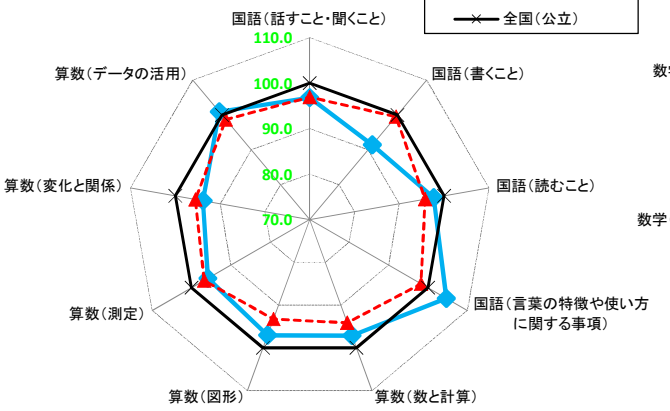
■栗山町内の状況及び学力向上策　（小学校数：3校 、児童数：73人）（中学校数：1校 、生徒数：61人）

【教科全体の状況】

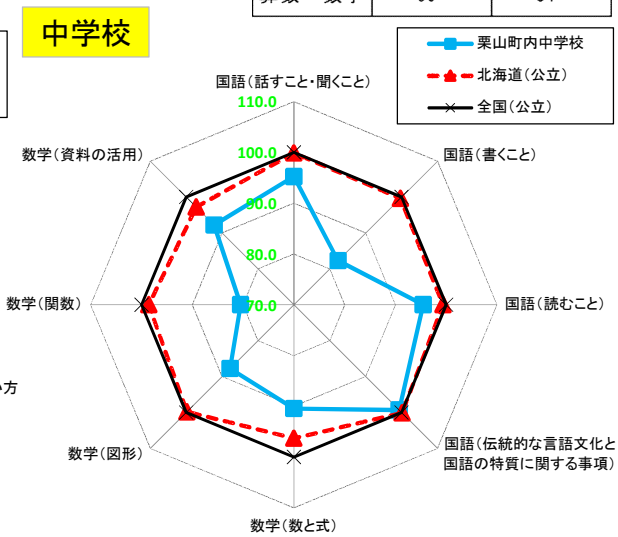
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	65	61
算数・数学	69	51

小学校

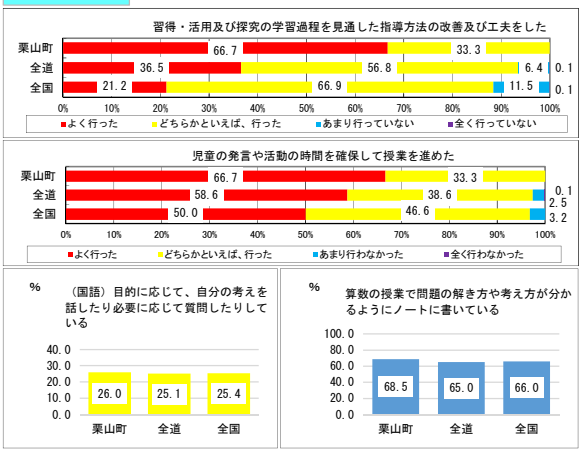


中学校

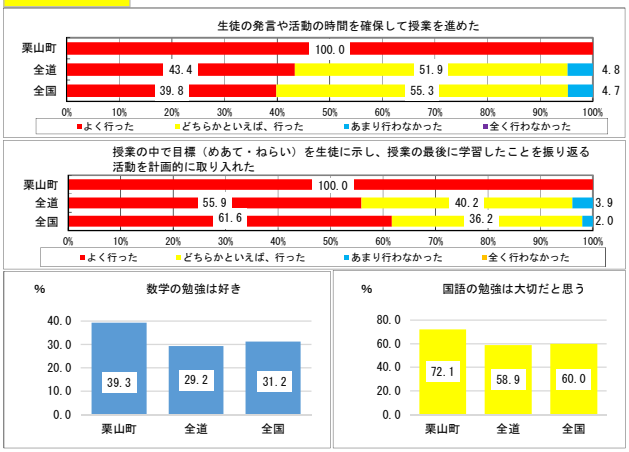


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたことにより、国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしている児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めたことにより、数学の勉強が好きな生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
児童の発言や活動の時間を確保して授業を進めたことにより、算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	授業の中で目標（めあて・ねらい）を生徒に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたことにより、国語の勉強は大切だと思う生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【栗山町の学力向上策】

◎　授業力の向上を目的とした、学校や教育振興会で教職員が学び合う環境の整備
◎　保護者や地域住民と連携したコミュニティ・スクール制度の推進
◎　ICT活用委員会による研修の充実

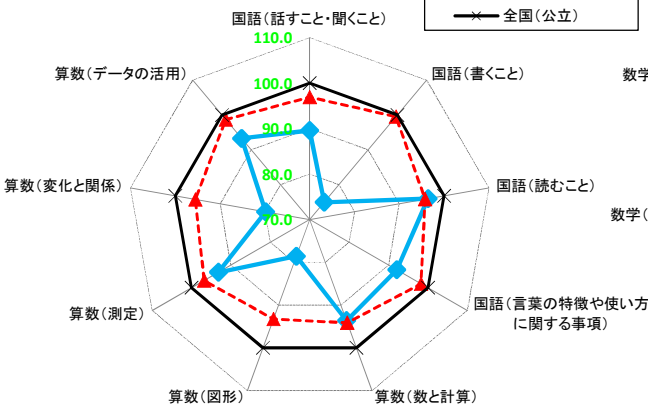
■月形町内の状況及び学力向上策　（小学校数：1校 、児童数：22人）（中学校数：1校 、生徒数：9人）

【教科全体の状況】

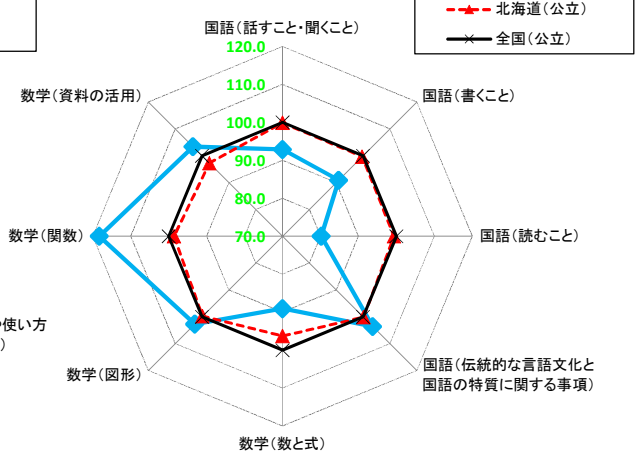
平均正答率	小学校	中学校
国語	58	60
算数・数学	63	58

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

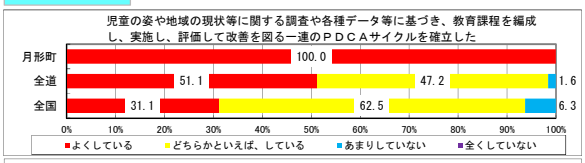


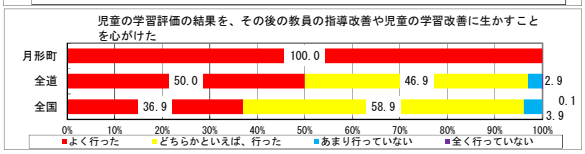
中学校

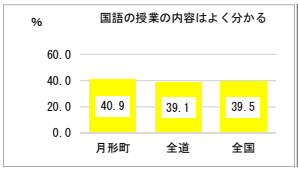


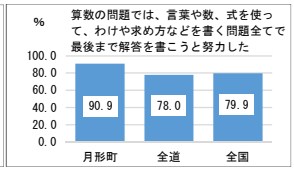
【質問紙の状況】

小学校

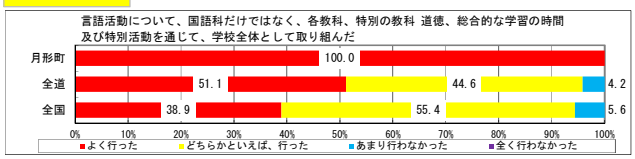


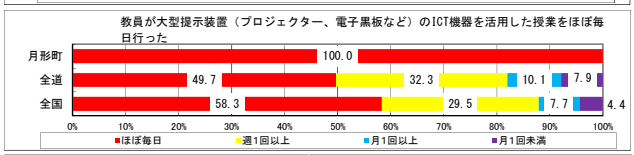


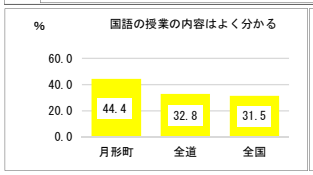


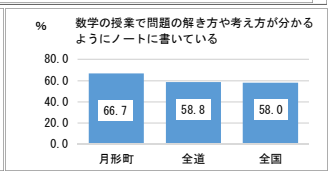


中学校









【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立したことにより、授業改善が図られ、国語の授業の内容がよく分かる児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	言語活動において、国語科だけではなく、各教科、特別の教科　道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んだことにより、数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
児童の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かすことを心がけたことにより、算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題全て最後まで解答を書こうと努力した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）のICT機器を活用した授業をほぼ毎日行ったことにより、国語の授業の内容がよく分かる生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【月形町の学力向上策】

◎　習熟の程度に応じた指導や主体的・協働的な学習を取り入れた指導の推進
◎　小・中学校に時間講師を配置し、主体的な学びの実現を図る授業改善の推進
◎　外部講師によるICT活用スキル向上のための研修会の実施

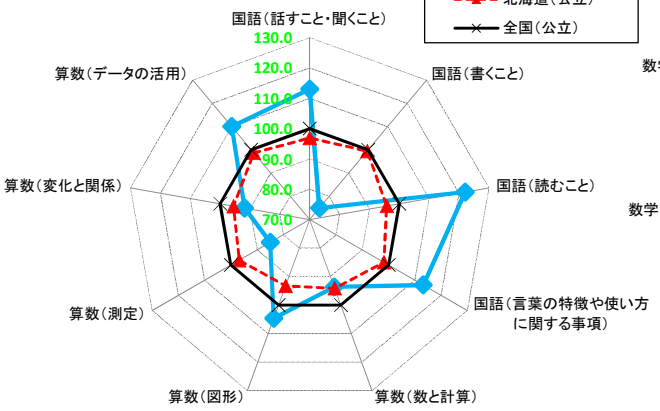
■浦臼町内の状況及び学力向上策　（小学校数：1校 、児童数：11人）（中学校数：1校 、生徒数：13人）

【教科全体の状況】

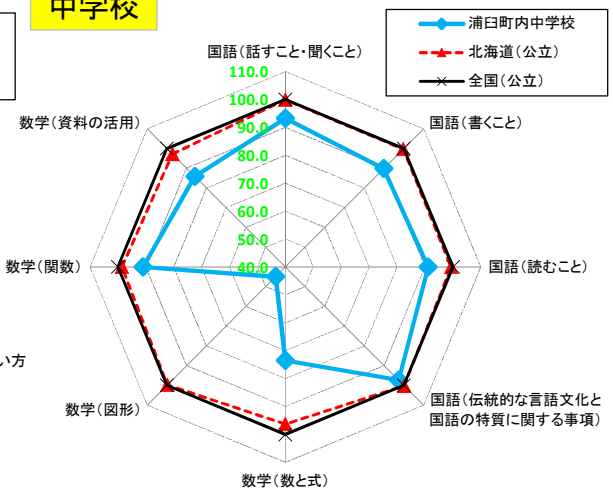
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	71	60
算数・数学	70	42

小学校

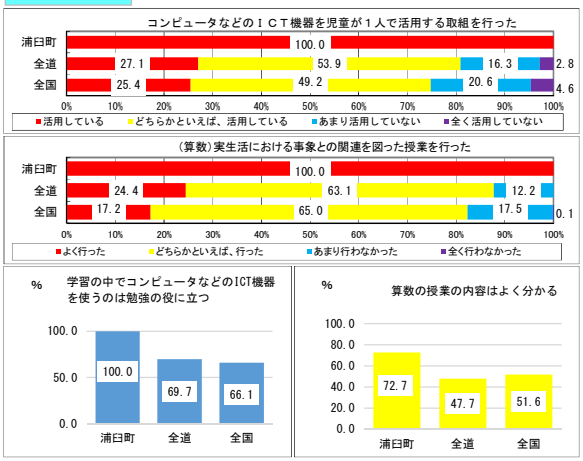


中学校

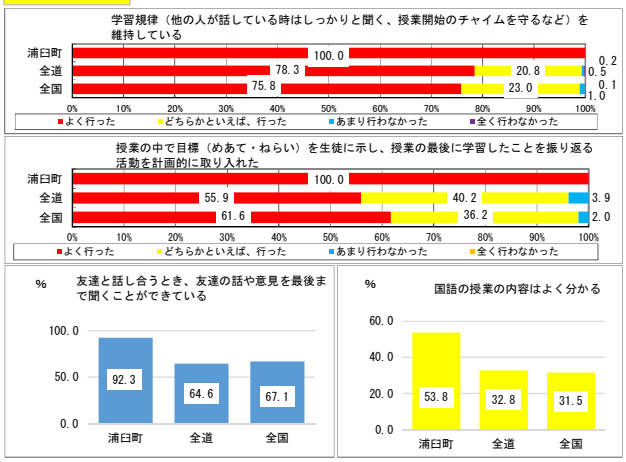


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
コンピュータなどのICT機器を児童が1人で活用する取組を行ったことにより、学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	学習規律（他の人が話している時はしっかりと聞く、授業開始のチャイムを守るなど）を維持する取組を行ったことにより、友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
算数において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の授業の内容がよく分かる児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	授業の中で目標（めあて・ねらい）を生徒に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたことにより、国語の授業の内容がよく分かる生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【浦臼町の学力向上策】

◎　小中連携による統一した授業スタイル、学習規律、指導方法の確立
◎　コミュニティ・スクール導入による家庭と地域、学校が連携した学校づくりの促進
◎　ICT機器の効果的な活用による授業改善の促進

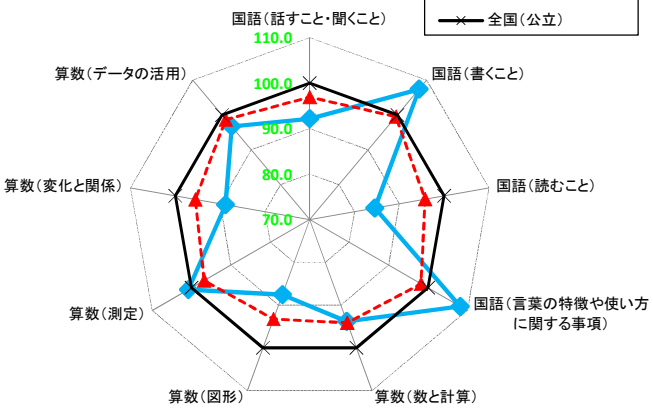
■新十津川町内の状況及び学力向上策　（小学校数：1校 、児童数：46人）（中学校数：1校 、生徒数：58人）

【教科全体の状況】

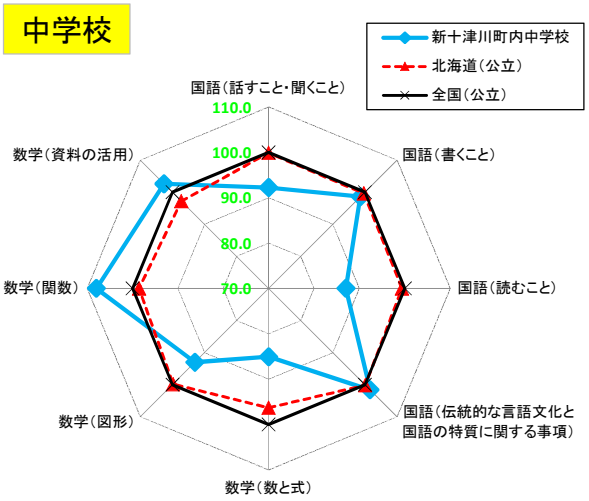
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	65	62
算数・数学	66	54

小学校

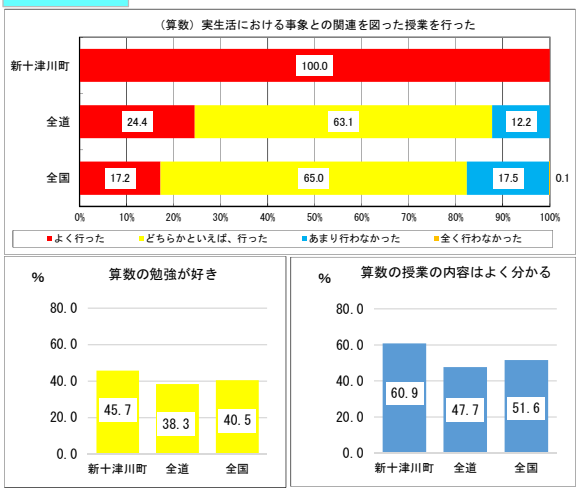


中学校

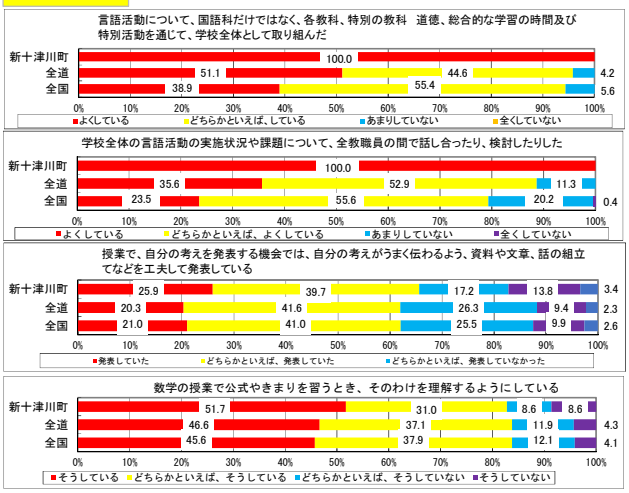


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
算数において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の勉強が好きな児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	言語活動について、国語科だけではなく、各教科、特別の教科　道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んだことにより、授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
町として、「学習支援サポーター」や「学力向上推進講師」を活用した「ティーム・ティーチング指導」の実施や、放課後学習サポートを実施したことにより、算数の授業の内容がよく分かる児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしたことにより、数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【新十津川町の学力向上策】

◎　「学習支援サポーター」や「学力向上推進講師」を活用した「ティーム・ティーチング指導」の実施
◎　ALTを活用した授業改善や中学校英語教師の乗り入れ授業の実施
◎　放課後学習サポートの実施

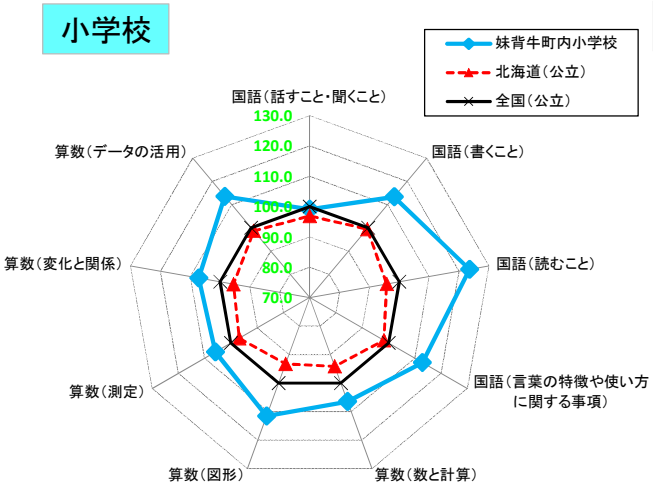
■妹背牛町内の状況及び学力向上策　（小学校数：1校 、児童数：16人）（中学校数：1校 、生徒数：13人）

【教科全体の状況】

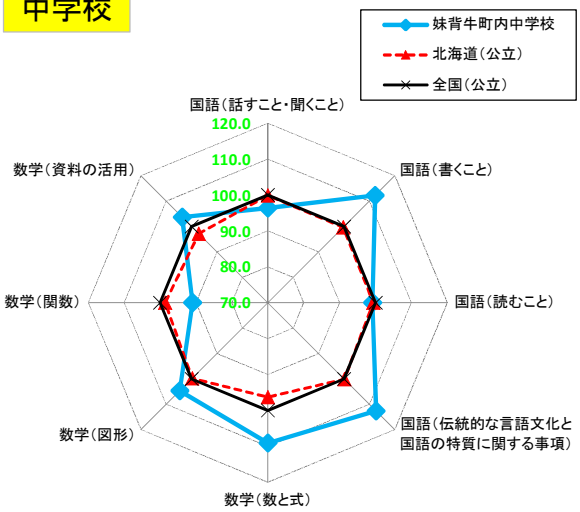
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	72	68
算数・数学	77	59

小学校

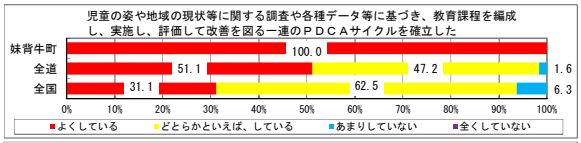


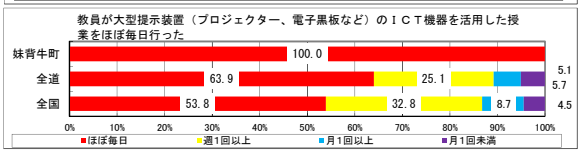
中学校

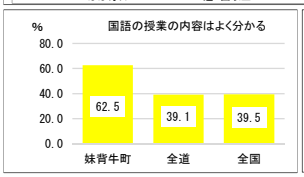


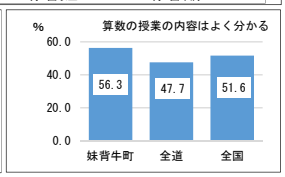
【質問紙の状況】

小学校

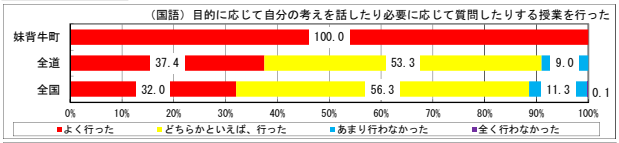


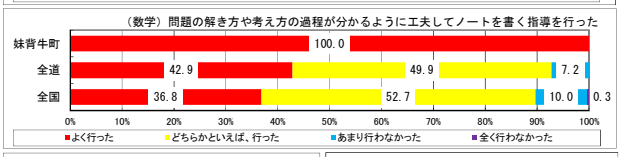


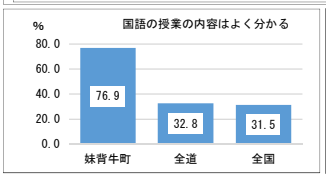


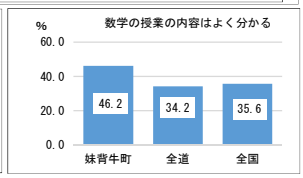


中学校









【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立したことにより、授業改善が図られ、国語の書くこと、読むこと、言葉の特徴や使い方に関する事項、算数の全ての領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。	国語において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、国語の授業の内容がよく分かる生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）のICT機器を活用した授業をほぼ毎日行ったことにより、授業改善が図られ、国語及び算数の授業の内容がよく分かる児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	数学において、問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導を行ったことにより、数学の授業の内容がよく分かる生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【妹背牛町の学力向上策】

◎　ティーム・ティーチングや習熟度別学習でつまずきの見られる児童生徒への指導の充実による学力の定着
◎　国語科等で育てた表現力を基軸とした、主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善の推進
◎　１人１台端末を効果的に活用した授業づくりの推進

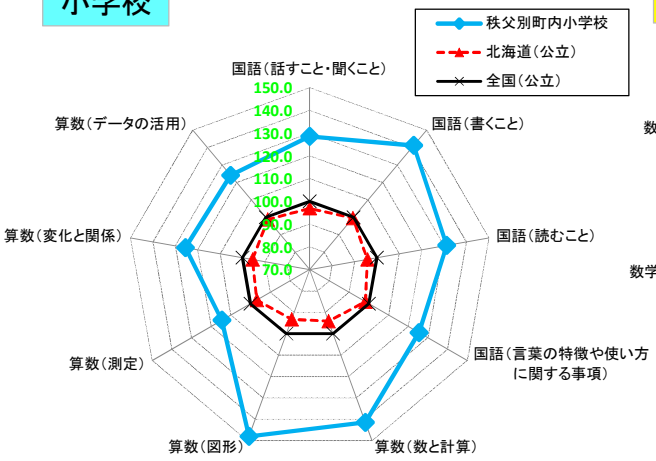
■秩父別町内の状況及び学力向上策　（小学校数：1校 、児童数：7人）（中学校数：1校 、生徒数：17人）

【教科全体の状況】

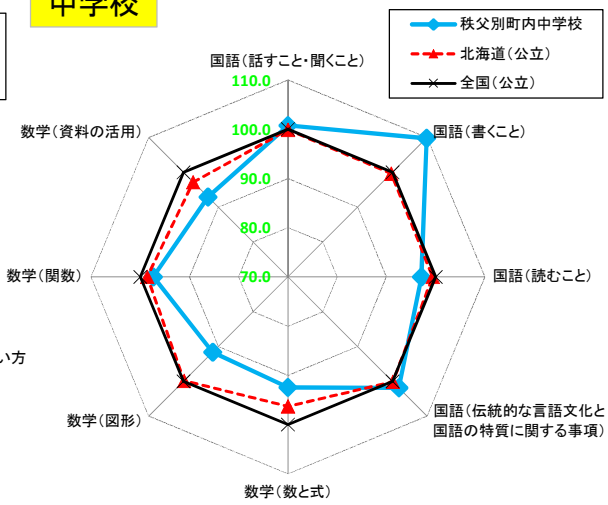
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	84	66
算数・数学	92	53

小学校

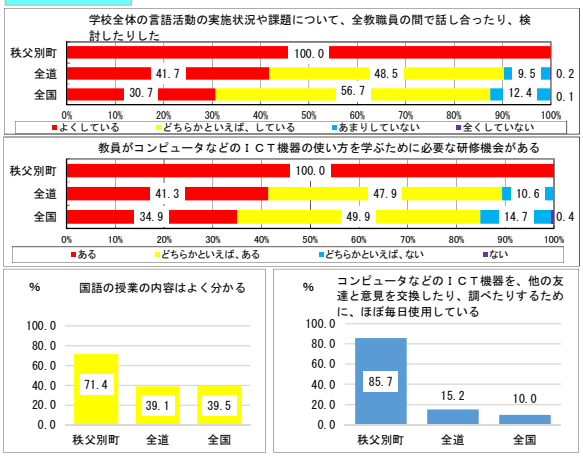


中学校

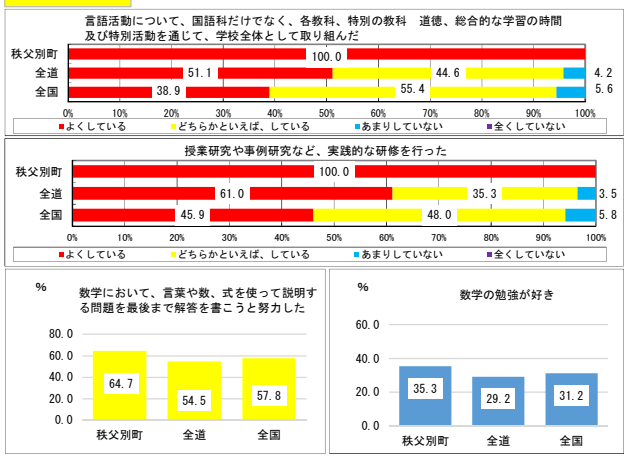


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしたことにより、国語の授業の内容がよく分かる児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	言語活動について、国語科だけなく、各教科、特別の教科道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んだことにより、数学において、言葉や数、式を使って説明する問題を最後まで解答を書こうと努力した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会を設定したことにより、授業におけるICTの効果的な活用が図られ、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、ほぼ毎日使用している児童の割合が全道及び全国を上回ったと考えられる。	授業研究や事例研究など、実践的な研修を行ったことにより、授業改善が図られ、数学の勉強が好きな生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【秩父別町の学力向上策】

◎　長期休業を活用した「望ましい習慣」の定着と郷土愛を育む事業の実施
◎　学習支援員の配置継続による個に応じた指導の充実
◎　無線LANの整備によるタブレット型パソコンの活用促進

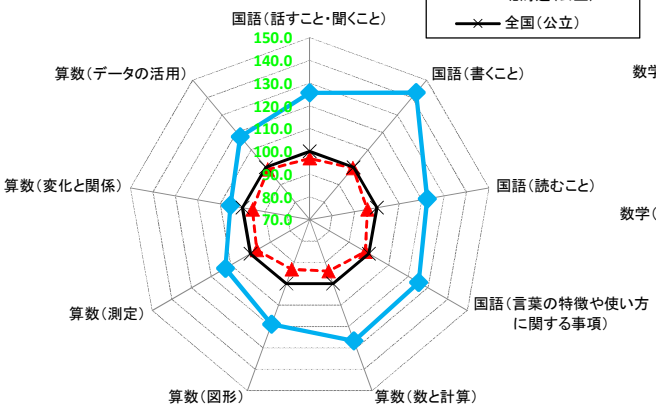
■雨竜町内の状況及び学力向上策　（小学校数：1校 、児童数：15人）（中学校数：1校 、生徒数：15人）

【教科全体の状況】

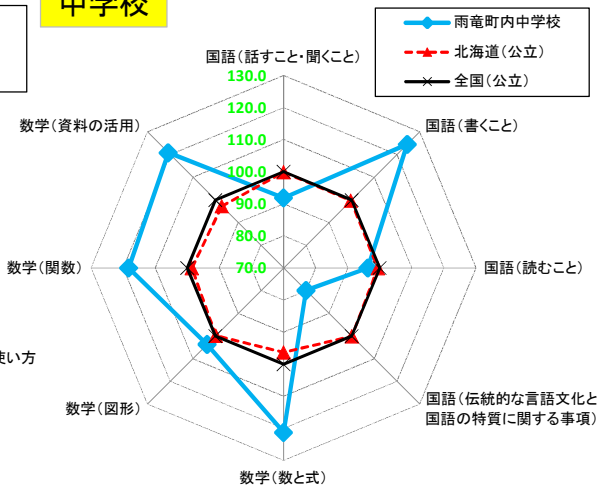
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	82	61
算数・数学	82	67

小学校

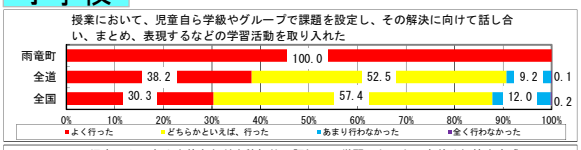


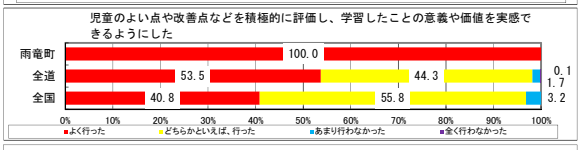
中学校

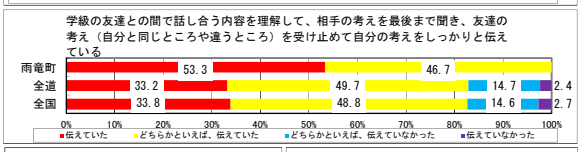


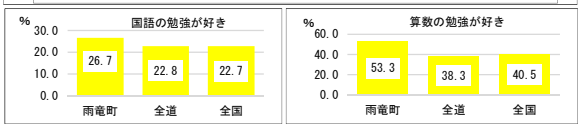
【質問紙の状況】

小学校

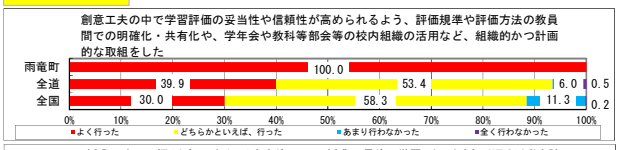


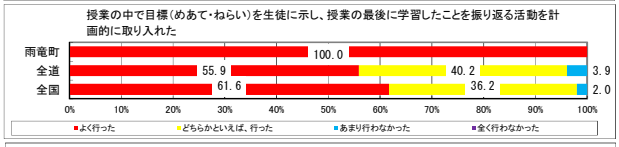


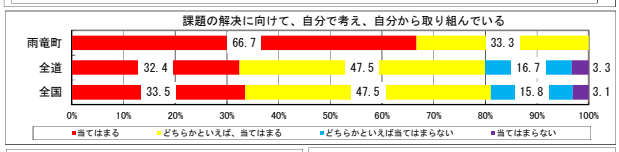


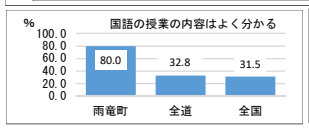


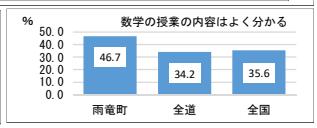
中学校











【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、学級の友達との間で話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えている児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法について教員間で明確化・共有化を図った。また、学年部会や教科等部会等の校内組織の活用など、組織的かつ計画的な取組をしたことにより、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
児童のよい点や改善点などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしたことにより、国語や算数の勉強が好きな児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	授業の中で目標（めあて・ねらい）を生徒に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたことにより、国語や数学の授業の内容がよく分かる生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【雨竜町の学力向上策】

◎　小中合同教員研修を通した授業改善の取組と小中相互乗り入れ授業の実践
◎　ICT機器の活用による指導方法の工夫改善と効果的な学習活動の推進
◎　小中で連動した家庭学習強調習慣の設定による家庭学習の時間と質の向上

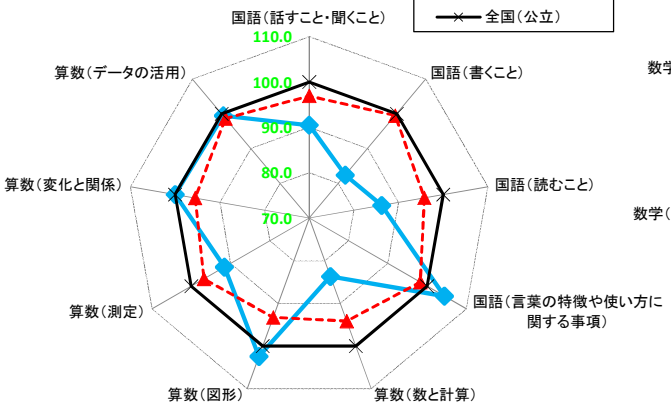
■北竜町内の状況及び学力向上策　（小学校数：1校 、児童数：18人）（中学校数：1校 、生徒数：10人）

【教科全体の状況】

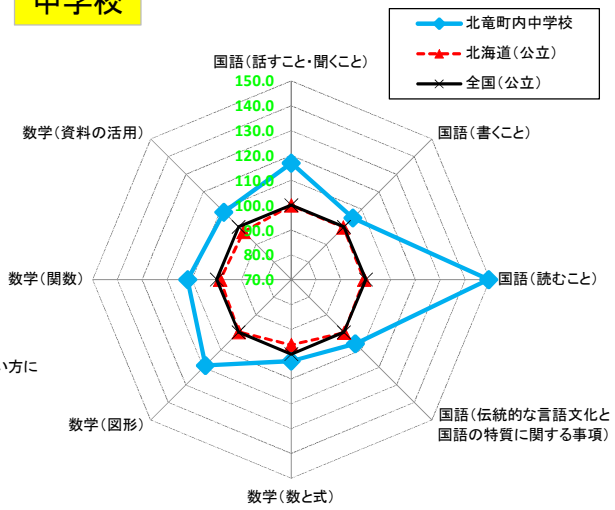
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	62	76
算数・数学	68	63

小学校

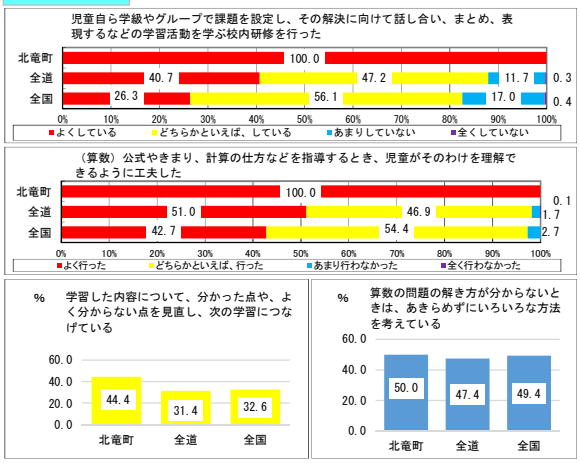


中学校

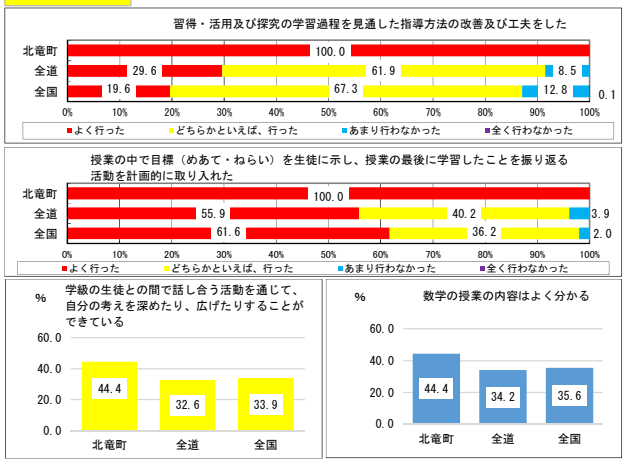


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行ったことにより、学習した内容について、分かった点や、よく分からない点を見直し、次の学習につなげている児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたことにより、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
算数において、公式やきまり、計算の仕方などを指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫したことにより、算数の問題が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えている児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	授業の中で目標（めあて・ねらい）を生徒に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたことにより、数学の授業の内容がよく分かる生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【北竜町の学力向上策】

◎　全国学力・学習状況調査の結果を活用し、学力や学習状況の評価・分析をもとにした授業改善
◎　町教育振興会での小中連携した研究活動など、教職員の実践指導力を高める取組の充実
◎　ICT化に向けての無線LAN環境整備

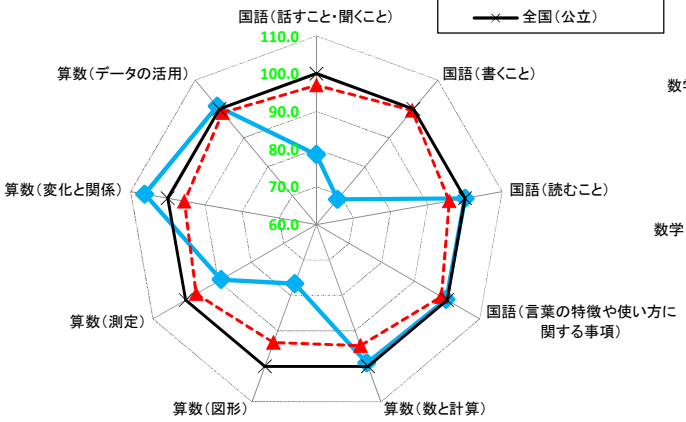
■沼田町内の状況及び学力向上策　（小学校数：1校 、児童数：12人）（中学校数：1校 、生徒数：15人）

【教科全体の状況】

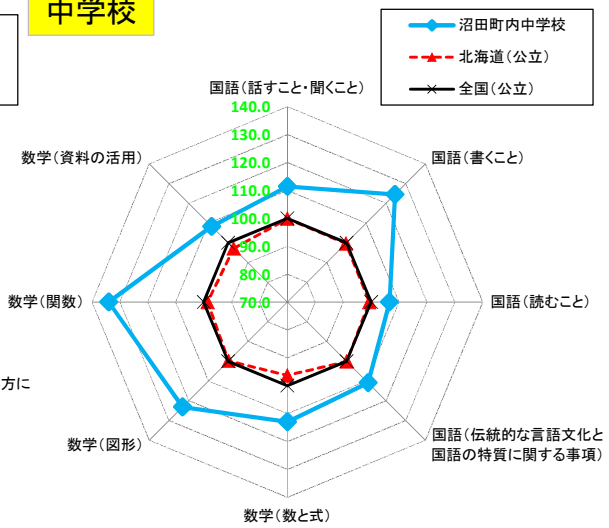
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	58	73
算数・数学	69	68

小学校

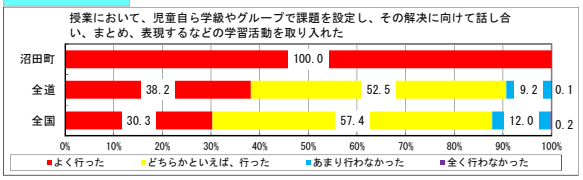


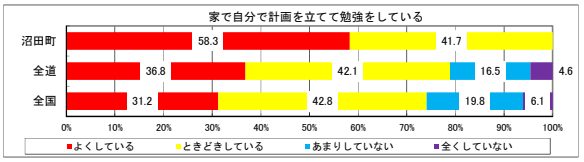
中学校

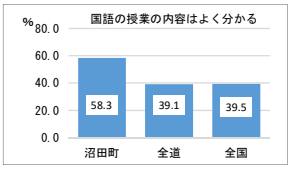


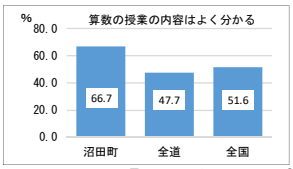
【質問紙の状況】

小学校

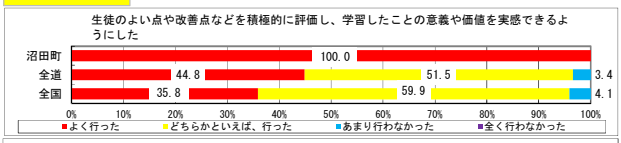


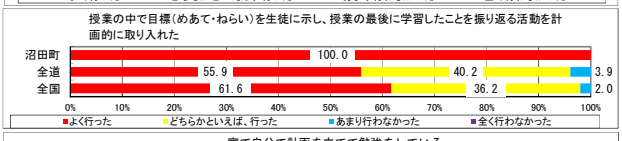


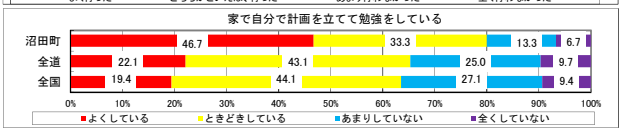


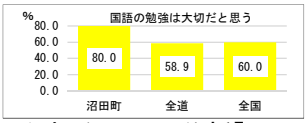


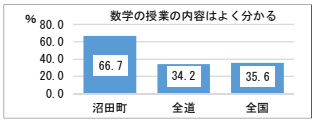
中学校











【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、国語や算数の授業の内容がよく分かる児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	生徒のよい点や改善点などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしたことにより、国語の勉強は大切だと思う生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
	授業の中で目標（めあて・ねらい）を生徒に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたことにより、数学の授業の内容がよく分かる生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
町として、望ましい生活習慣・家庭学習の定着に向けた家庭学習計画表の作成及び実施により、家で自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	望ましい生活習慣・家庭学習の定着に向けた家庭学習計画表の作成及び実施により、家で自分で計画を立てて勉強をしている生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【沼田町の学力向上策】

◎　小中9年間を見通した教育課程の編成と体制及び教育環境の整備等による小中一貫教育の推進
◎　長期休業中及び平日の「学習サポート事業」の実施
◎　望ましい生活習慣・家庭学習の定着に向けた家庭学習計画表の作成及び実施